

日本河川協会 主催
彩の川研究会 共催
第214回 河川文化を語る会



「江戸時代中期の治水仕 法・紀州流・井澤弥惣兵衛為 永の業績について」

令和6年11月21日

千葉県立関宿城博物館

調査協力員 市川幸男

・土木の日について

毎年11月18日は「土木の日」です。土木学会の前身の「工学会」の設立が、明治12年(1879年)11月18日でした。平成12年(1987年)11月に、制定されました。

「土」=「十」と「一」

「木」=「十」と「八」 に分解して読めます

○

土木学会の前身の「工業会」が設立されたのは明治12年ですが、「土木学会」として改組発足したのが大正3年(1914年)11月21日です。

「土木の週間」 11月18日～24日の一週間を「くらしと土木の週間」として、各地で色々な取り組みがなされています。

本日の主な内容

1、おさらい

利根川東遷と関東流 伊奈氏の業績

関東代官頭伊奈備前守忠次

関東郡代伊奈半十郎忠治

伊奈半左衛門忠克

2、見沼通船堀について

皇太子殿下啓対応を含む

3、見沼代用水開削と見沼干拓について

用水路沿線の沼地の干拓を含む

4、飯沼干拓と吉田用水開削について

5、江連用水開削、小貝川福岡堰改築、手賀沼干拓、江戸川中流部のショートカット及び庄内古川の合流点引き下げ、越後紫雲寺潟干拓、木曾三川分流計画の策定（薩摩藩の宝暦治水を含む）等について

6、井澤弥惣兵衛に関する関連事項

- ・紀州流の師、大畑才蔵
- ・嫡男楠之丞正房と部下達
- ・事業推進に尽力した名主や町人達
- ・井澤弥惣兵衛のお墓、関連のお寺、神社、顕彰碑等について

(質疑応答)

7、ご存じですか？へーそうなんだ！

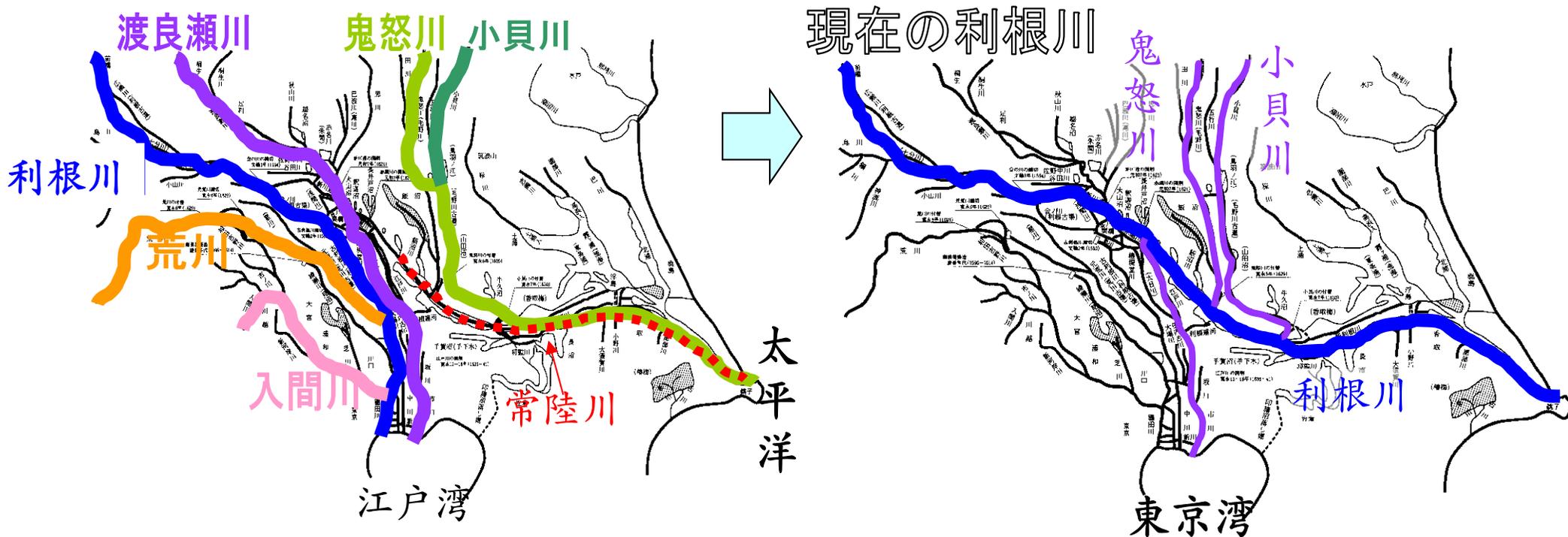
8、推論・私論

おさらい:利根川の東遷

徳川家康の江戸入府を契機に河川事業に着手。最も大きな事業が、東京湾（江戸湾）へ流れていた利根川の流路を太平洋へ変更した事業。

- 埼玉平野の新田開発（67万石→128万石へ）
- 江戸を水害から守る（その後もたびたび氾濫を繰り返した）
- 舟運路の開発（沿川のまちは河岸として栄え野田の醤油などもこの時代に発達）

海難事故の多い房総半島沖を避けて、東北地方から銚子で船荷を積み替えて、利根川、江戸川を経て江戸に年貢米などの物資を安全に輸送が可能になった。）



おさらい:伊奈流と関東郡代伊奈氏

- 初代 伊奈備前守忠次
(いなびぜんのかみただつぐ)

徳川家康に仕える

小田原北条氏攻めで功績

会の川の締切(利根川東遷の開始)

現在の綾瀬川源流点の備前堤を築造

(元荒川を綾瀬川筋に流下しないように分離)

関東地方各地に備前堀を開削

一万石の大名格

現在の伊奈町の小室に城を構える

検地の実施、関東代官頭

- 三代 伊奈半十郎忠治(忠次次男)
初代の関東郡代

新川通りの開削

赤堀川の開削着手

江戸川上流部の開削

荒川の西遷(久下の瀬替え)

鬼怒川・小貝川の分離

小貝川の岡堰、山田沼堰を築造(現在の福岡堰)

7千石、旗本各。現在の川口市赤山に陣屋を構える。

- 四代 伊奈半左衛門忠克

赤堀川の増掘削(利根川東遷の概成)

- 七代 忠順(ただのぶ)

富士山の宝永噴火に対して災害復旧を主導

- 八代 忠達(ただみち)

葛西用水の概成、溜井で多段式の落水→用水の再利用

(伊奈流の典型的な農業用水路)

- 十二代 忠尊(ただたか)

家事不行届きを理由に、罷免・改易される

(後継者問題で養子が比叡山に出奔したことを幕府に届け出ていなかった。表向きの理由。)

- 伊奈流又は関東流

低い堤防で中小洪水を防ぐ

遊水池や湿地に水を貯める

用排水の兼用、溜井により反復利用

武田信玄の甲州流の系統といわれる

突然ですが、ここで速報です。利根川東遷の赤堀川の開削には、2万人を越える大勢の隠れキリシタンが作業に従事していました。栗橋宿の深廣寺にある供養塔「六角名号塔」。「南無阿弥陀仏」の「南」の字に十字架が描かれている。



久喜市指定有形文化財(歴史資料) 六角名号塔

指定年月日 昭和五十三年三月二十九日

所在地 久喜市栗橋東三丁七二四(深廣寺)

六角名号塔は、総高約三六〇センチメートル、一面の幅約五十七センチメートル、六面からなる石塔で、「南無阿弥陀仏」の名号が刻まれている。

この塔は、深廣寺二代住職単信上人が伊豆より大石を船で持ち帰り、承応三年(一六五四)〜明暦二年(一六五六)の間に供養塔を二十基建立、その後明和三年(一七六六)に九代住職法信上人が一基建立したものである。

配置は左の図のとおりで、基礎部右側の地名の表記が、承応三年五月から七月までが「武蔵野国新栗橋」(⑤〜⑫)、その他(①〜④、⑬〜⑳)が「武州栗橋」となっている。

21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
① 明暦2年(1656) 6月15日 栗橋	② 明暦2年(1656) 2月13日 栗橋	③ 承応4年(1655) 2月15日 栗橋	④ 承応4年(1655) 1月15日 栗橋	⑤ 承応3年(1654) 7月15日 新栗橋	⑥ 承応3年(1654) 7月1日 新栗橋	⑦ 承応3年(1654) 7月1日 新栗橋	⑧ 承応3年(1654) 6月15日 新栗橋	⑨ 承応3年(1654) 4月15日 新栗橋	⑩ 承応3年(1654) 5月15日 新栗橋	⑪ 承応3年(1654) 5月15日 新栗橋	⑫ 承応3年(1654) 4月15日 新栗橋	⑬ 承応3年(1654) 8月15日 栗橋	⑭ 承応3年(1654) 9月15日 栗橋	⑮ 承応3年(1654) 10月15日 栗橋	⑯ 承応3年(1654) 11月15日 栗橋	⑰ 承応4年(1655) 4月15日 栗橋	⑱ 明暦元年(1655) 7月15日 栗橋	⑳ 明暦元年(1655) 9月15日 栗橋	㉑ 明暦元年(1655) 10月15日 栗橋	㉒ 明和3年(1766) 3月15日

平成二十五年一月十七日 久喜市教育委員会

隠れキリシタンの2/3は九州から移住。残りは信州高遠や上田、越後の高田から移住したと推定されている。幕府の禁教令が出されている中でも労働力として「治外法権」で伊奈氏に庇護されていて、個人の崇拜は黙認されていたようである。



紀州流・井澤弥惣兵衛為永

- ・ 紀州藩出身
- ・ 吉宗の享保の改革の担い手
- ・ 60才で幕府旗本に採用、幕府勘定方→
勘定吟味役格→勘定吟味役と昇進
- ・ 紀州流の治水利水工法を推進
- ・ 晩年73才で、美濃郡代を兼務
木曾三川の分離計画を策定→薩摩藩の
宝暦の治水につながる

連続堤防方式

江戸川中流部のショートカット・庄内古川の合流
点の引き下げ(金杉～深井新田)

綾瀬川中流部のショートカット

用排水分離方式、溜井や沼沢地の干拓による

新田開発

見沼の干拓、見沼代用水の開削

見沼通船堀の設置

高沼の干拓、高沼用水の開削

手賀沼の干拓

飯沼の干拓、吉田用水の開削

江連用水の開削



見沼代用水と見沼通船堀に関する経緯

- 1590年（慶長 8） 徳川家康が江戸城に入府
- 1594年（文禄 3） 利根川東遷事業の始まり（会の川の締切）
関東代官頭伊奈備前守忠次が指揮
- 1629年（寛永 6） ハ丁堤（長さ870m）の築造により見沼溜井(1,200ha)の造成。関東郡代伊奈忠治が指揮
- 1727年（享保12） 見沼の干拓、見沼代用水の開削に着工
勘定吟味役井澤弥惣兵衛為永が指揮
- 1728年（享保13） 見沼代用水（利根川から約60kmの用水路）が完成
見沼田圃の干拓1,200ha
- 1731年（享保16） 見沼通船堀の築造（見沼代用水と芝川の水位差 3m）
西縁用水～芝川 654m、東縁用水～芝川 390m
見沼通船開始。高田家と実弟の鈴木家が運営許可受け。
- 1759年（宝暦 9） 元荒川の交差部が柴山伏越だけに改築される
- 1874年（明治 7） 見沼通船会社の設立、17の地区会社が運営
- 1920年頃（大正年間） 見沼通船の実質終息
- 1931年（昭和 6） 見沼通船会社の通船許可が切れて、見沼通船の正式廃止
- 1955年（昭和30） 埼玉県教育委員会により県指定史跡に指定される
- 1982年（昭和57） 国指定史跡に指定される。
- 1994年（平成 6） 見沼通船堀整備事業着手（～平成 9年度）東縁閘門の復元
- 1995年（平成 7） 閘門開閉実験
- 1997年（平成 9） 西縁一の関の復元、舟の復元。
通船堀の閘門開閉実演を実施する。

下流5,000haをかんがい

8代将軍徳川吉宗が新田開発を奨励（享保の改革）

見沼代用水沿川の沼の開発を含めて15,000haをかんがい

連続航行が不可能となり、荷物の積み替えを要した

1883年(明治16)高崎線開通

1885年(明治18)東北線開通

1914年(大正3)パナマ運河が完成(見沼通船堀よりも183年後)

見沼代用水と見沼通船



見沼通船堀

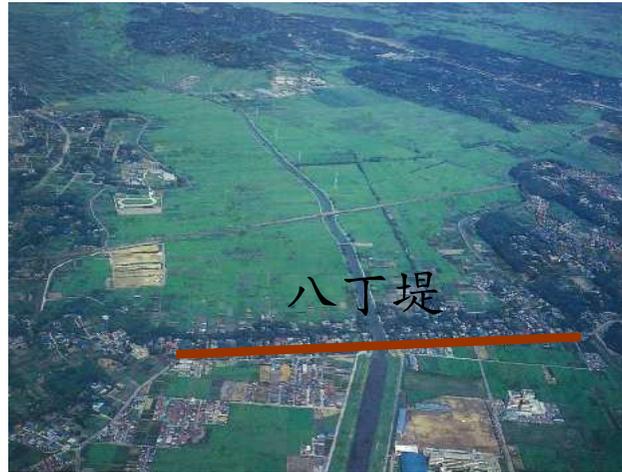


見沼溜井と八丁堤

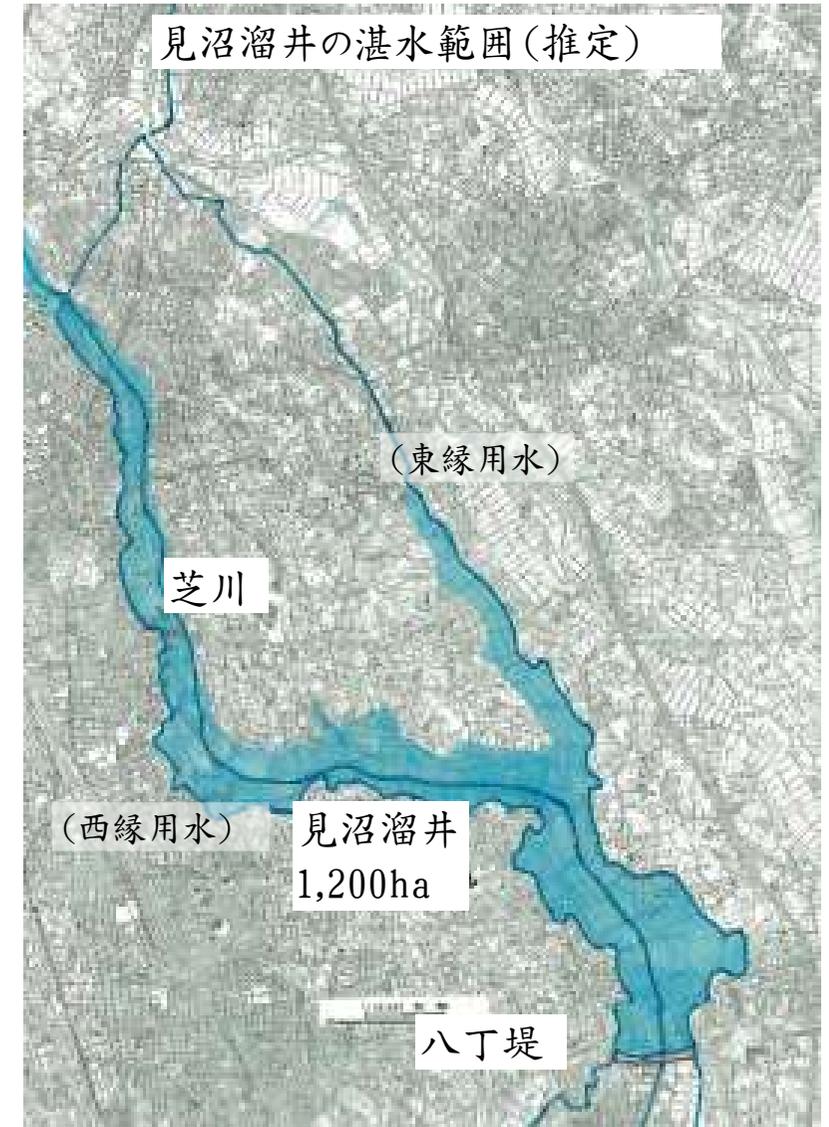
- ・ 見沼と呼ばれる広大な沼沢池を見沼溜井に造成し、かんがい用水池として利用
- ・ 関東郡代伊奈忠治が八丁堤を築造
- ・ 堤の名前は長さが8町(870m)あることによる
- ・ 見沼の下流の村、5,000haにかんがい
- ・ 関東流 用排水を繰り返し多段階で利用



八丁堤:現在は県道として使われている



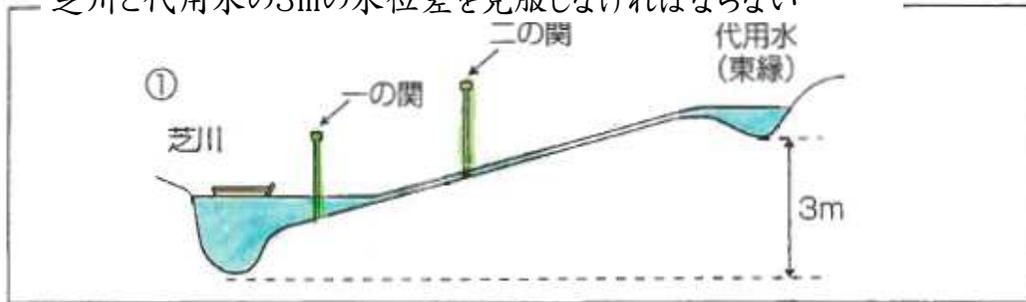
芝川沿川の沼地に八丁堤を築造して溜井とし、下流部5,000haを水田に開発して、かんがい用水を供給
(写真所蔵・(株)中央社)



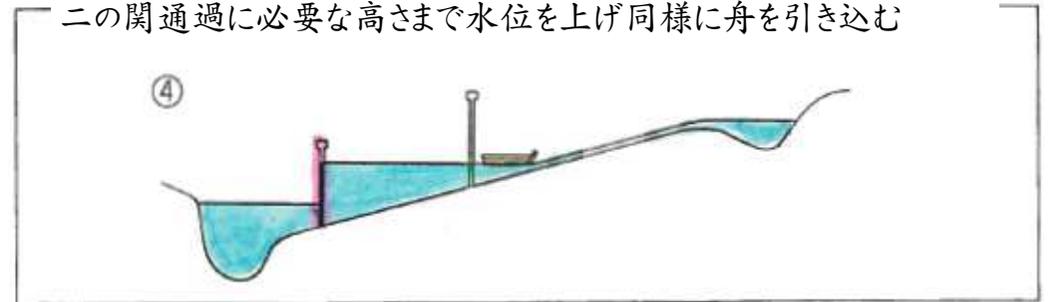
見沼溜井:湛水面積1,200ha程度と推定されている

見沼通船堀の通行の仕組み

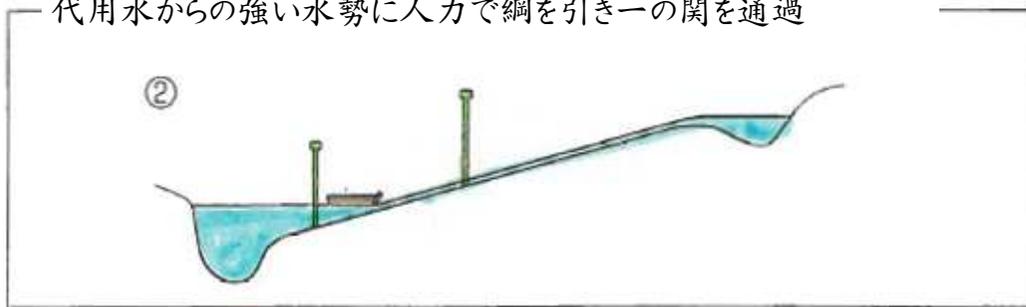
芝川と代用水の3mの水位差を克服しなければならない



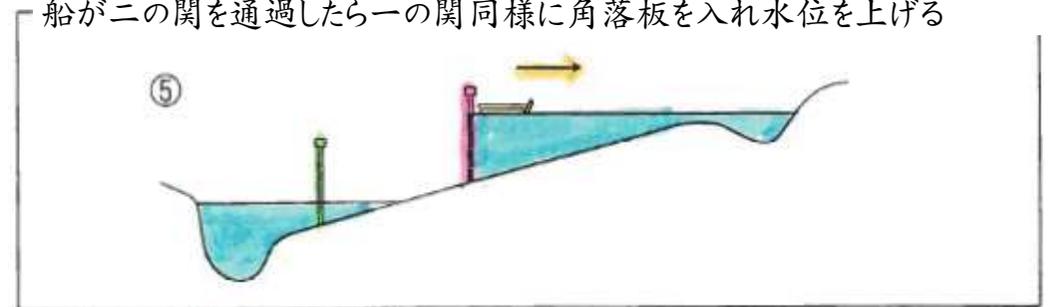
二の関通過に必要な高さまで水位を上げ同様に舟を引き込む



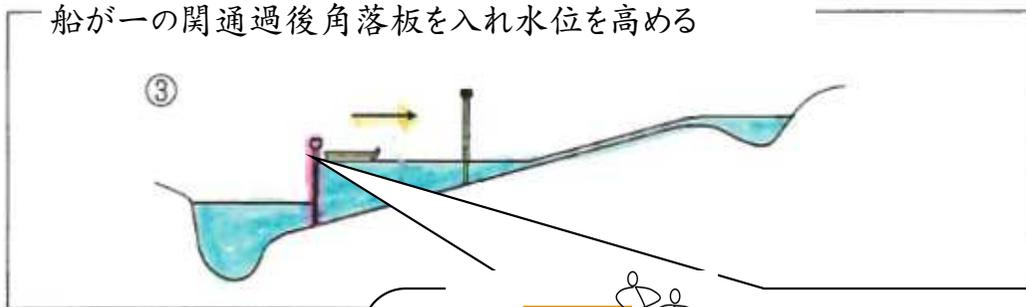
代用水からの強い水勢に人力で綱を引き一の関を通過



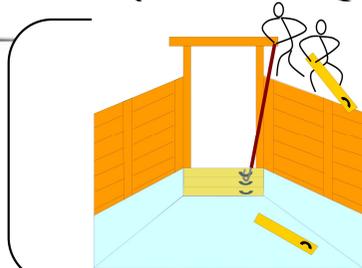
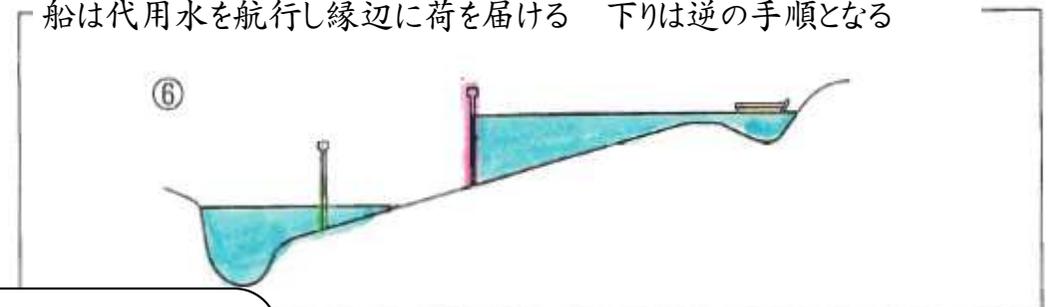
船が二の関を通過したら一の関同様に角落板を入れ水位を上げる



船が一の関通過後角落板を入れ水位を高める



船は代用水を航行し縁辺に荷を届ける 下りは逆の手順となる



「杵抜き」と呼ばれる熟練者が
 鉤のある棒で角落板を設
 置したり取りはずす
 1カ所に12枚設置される
 だいたい10枚を使用

図は浦和市立博物館「見沼その歴史
 と文化」より転載・加筆加工

見沼通船堀の利用期間と通船イメージ

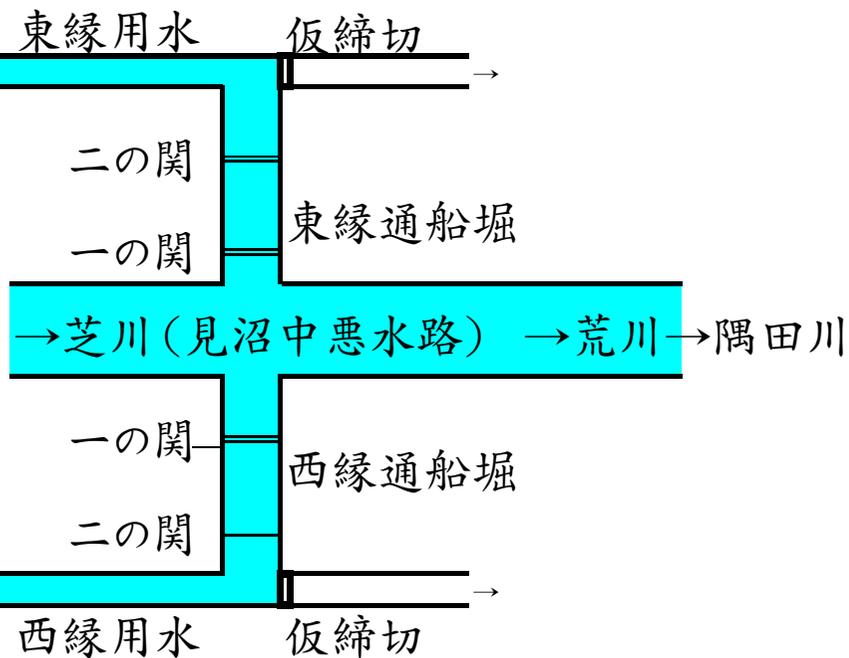
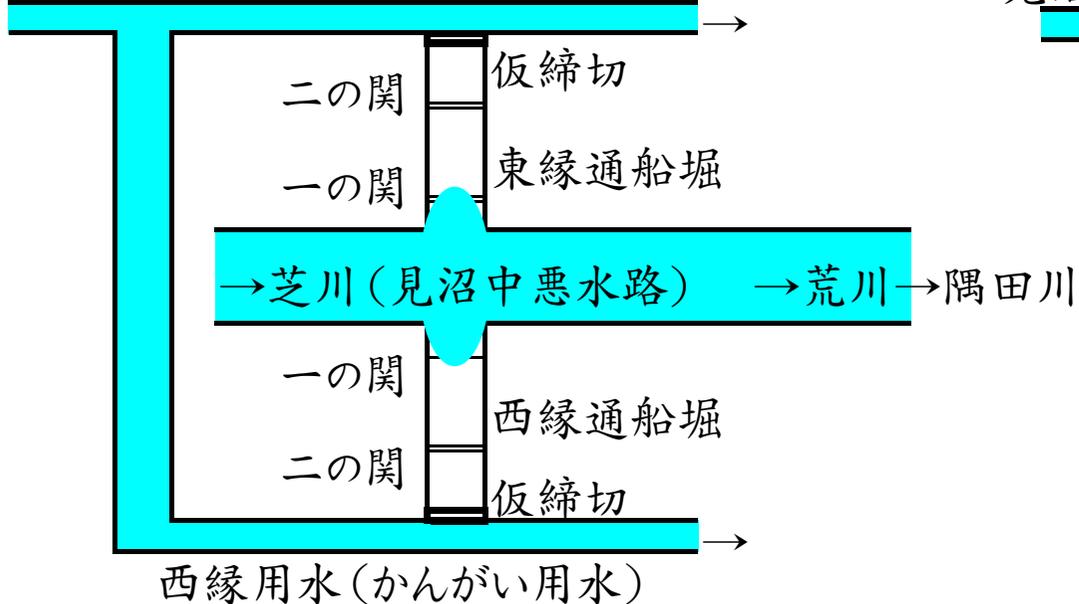
かんがい期 (3月～8月)

非かんがい期 (9月～2月)

(のちに12月～2月)

→見沼代用水 東縁用水(かんがい用水)

→見沼代用水 東縁用水 仮締切



見沼通船堀の閘門開閉実演風景

平成 9年から開閉実演を毎年1回開催

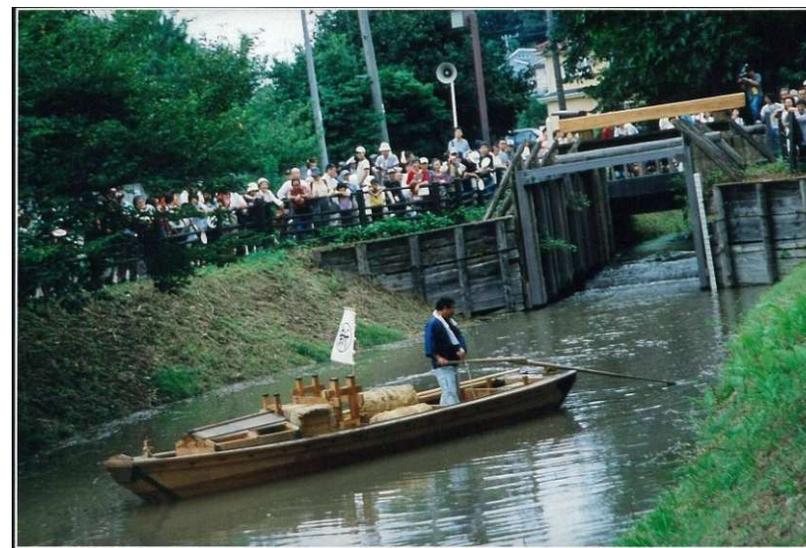


「杵抜き」と呼ばれる熟練者が鉤のある棒で
角落板を設置したり取りはずす。
1カ所に12枚設置される。



一の関の上流側船だまり

○に新の字を描いたノボリを立てている。
見沼通船差配の支配下であること目印



二の関の下流側

上の杵は鳥居柱



見沼通船堀の概要と運搬された貨物と通航した舟

- ・ 見沼通船堀は代用水縁辺の村々と江戸を結ぶ舟運のために代用水路を利用する運河として築造された
- ・ 代用水路と芝川の間が最も近い八丁堤付近に位置を選定
- ・ 東縁390m、西縁654m
- ・ 水位の落差が3mもあり、急すぎるので船が通るには困難であり、これを解消するために、東西とも二箇所ずつの閘門を設けて水位を調節しながら船を上下させるもの
- ・ 見沼代用水が完成した享保13年から3年後の享保16年(1731)に完成
- ・ パナマ運河の完成(1914年)よりも183年も前にできた

運搬された貨物

下り 見沼代用水沿岸→八丁→江戸(東京)

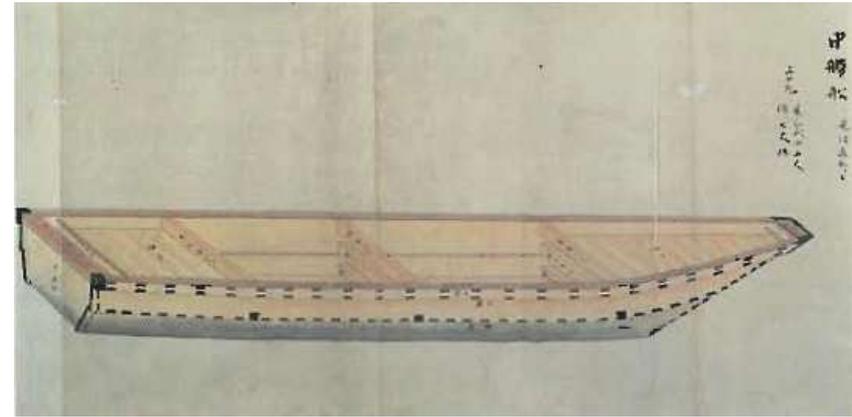
米(年貢米)、大麦、小麦、野菜、

薪、木材、竹木、漬物、樽柿、味噌、渋、芋類

上り 江戸(東京)→八丁→見沼代用水沿岸

肥料(屎尿、干鰯、大豆粕、菜種粕)・石灰

日用品(塩、魚類、醤油、石油、荒物)



図は浦和市立博物館「見沼その歴史と文化」より転載
所蔵:船の科学館

通航した舟

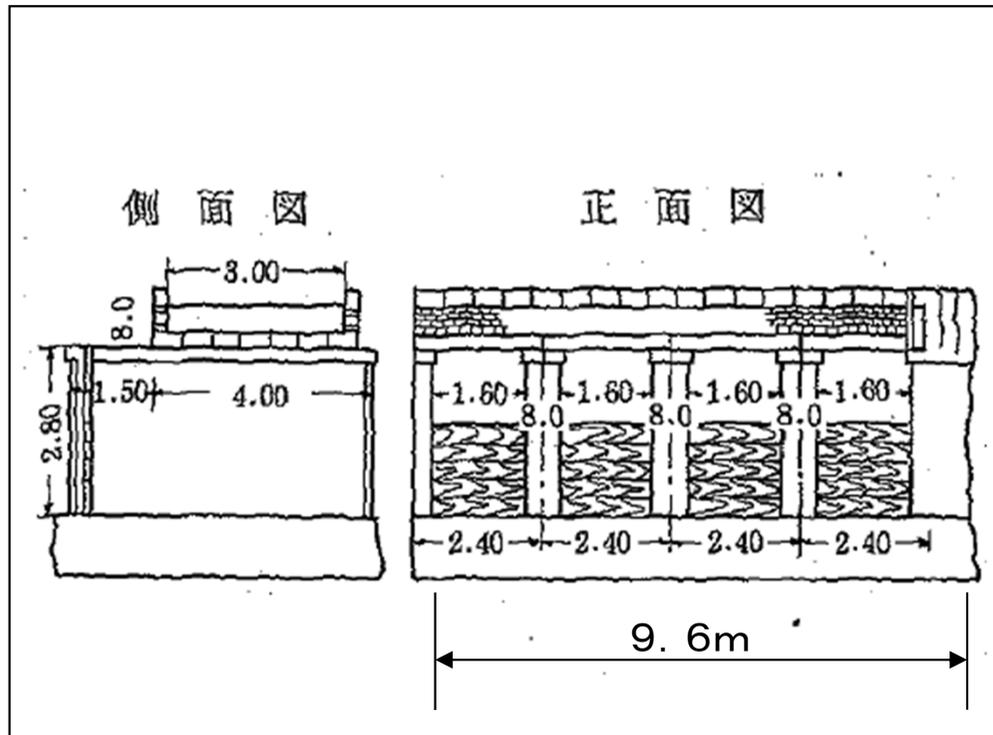
似艀船(にたりひらたぶね)(なまず船)、

中艀船(なかひらたぶね)

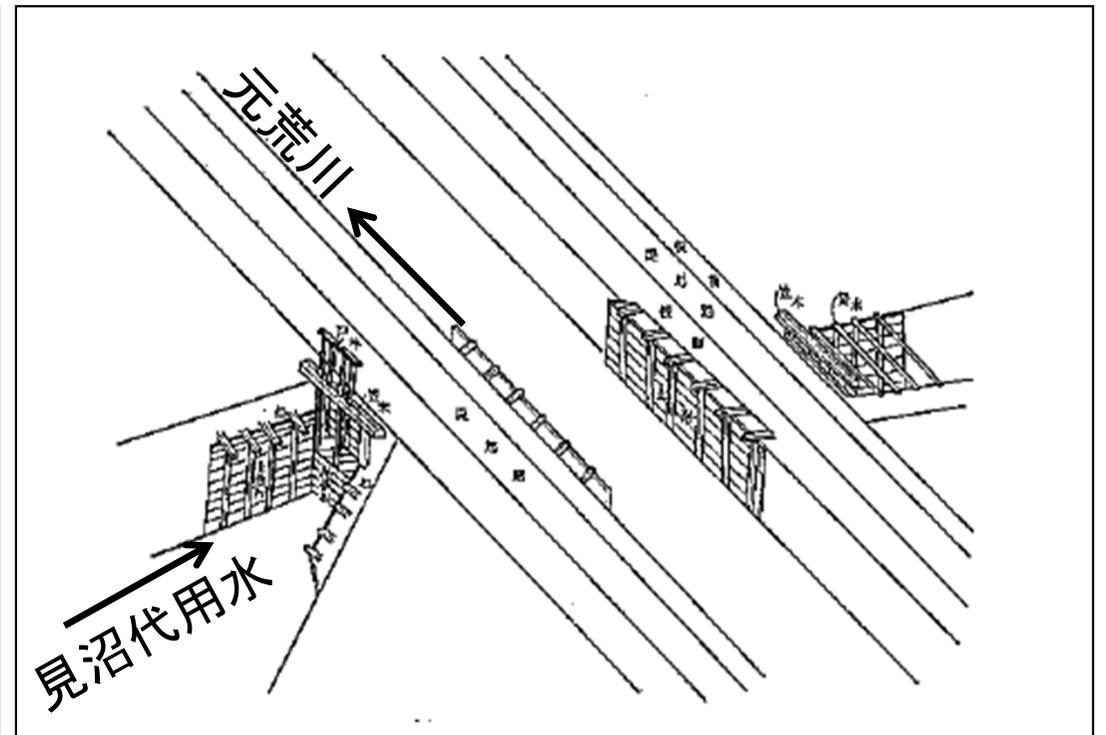
長さ約10.5m、幅2m、積載量6トン～9トン

一俵60kgの米で100～150俵

見沼代用水主要構造物の略図



八間堰



柴山伏越

見沼代用水の現在の取水口・利根大堰（他の用水路との合口）

見沼代
用水元
堰樋跡



堰の下を潜って
群馬県側に邑
楽用水が導水
されている。

埼玉用水→
（葛西用水
等）

沈砂池・
大分水工

見沼代用水

武蔵水路

見沼代用水の元塚(もといり)の跡



直上流側に増塚(ますいり)があった。

十六間堰と八間堰

八間堰・十六間堰

星川から葛城町で分れて新しく掘った見沼代用水路の入り口に八間堰を、星川に十六間堰を作り用水排水の調節を行いました。

八間堰は横八間（約14.5メートル）、高さ約2.4メートル、長さ約7.2メートルの木造の堰で、堰の上には浮き上げ弁のように土嚢をかきました。

十六間堰は横十六間（約29メートル）、高さ約2.4メートル、長さ約11メートルの木造の堰でこの上にも土嚢をかきました。

両方の堰は見沼代用水路の中でも、もっとも重要な堰の一つで、用水の必要な時には十六間堰を開いて八間堰を開き新しい水路に水を送り、用水のいらない時は反対に八間堰を開いて十六間堰を開き星川に水を流しました。

- 両方の堰とも木造の時は十数度の造替えや修繕をしました。
- 大正3年（1914）八間堰を木造より石に造替えました。
- 昭和29年（1954）十六間堰を木造よりコンクリートに造替えました。
- 昭和34年（1959）八間堰を石造よりコンクリートに造替えました。
- 埼玉合口二期事業（昭和53年～平成7年）により両方の堰とも現在の形に造替えました。

見沼弁財天(星川弁天)

井澤弥太郎兵衛為永は、見沼開墾の際に水路沿岸要所に弁財天社をお造し、灯明料を寄進して水路の平安と豊作を祈願したと伝えられています。

現在、見沼土地改良区では水資源開発の三つの見沼弁財天社と関係しており、この見沼弁財天（別名星川弁天）は、星川と見沼代用水路の兼用区間の終点である能登玉郡葛城町大字上大塚の十六間堰のほとりにあります。

この場所は、見沼代用水路と星川が分かれる場所で、見沼代用水路によって用水路の堰となる場所です。三つの弁財天は、享保16年（1731年）頃の創建で水利組合当時より社殿を度々改築しており、最近では昭和53年に見沼土地改良区で改築しました。

見沼弁財天(星川弁天) 現所在地(大宮市大字葛城町能登玉郡葛城町大字上大塚)

見沼土地改良区・水資源開発公団



左側:十六間堰 右側:八間堰
 (下星川へ) (見沼代用水・柴山伏越へ)

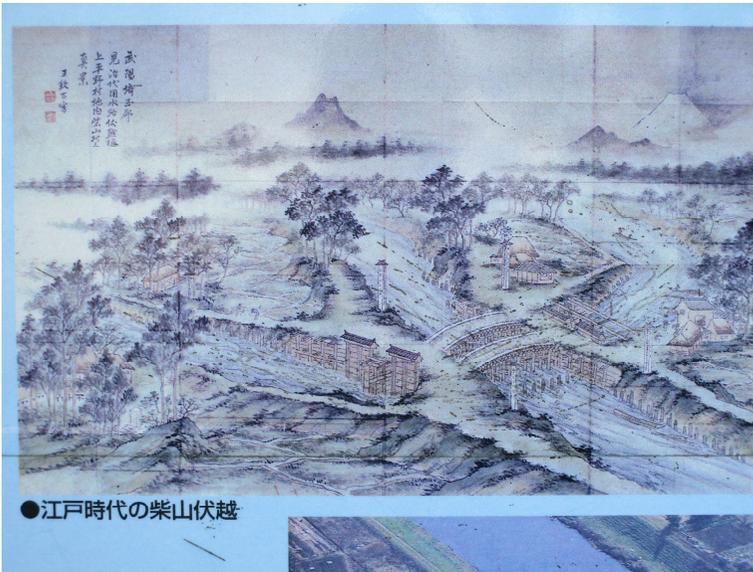


十六間堰(下流側から)
 (下星川が余水吐きの役割)

柴山伏越(サイフォン)



元荒川を伏越で横断している。



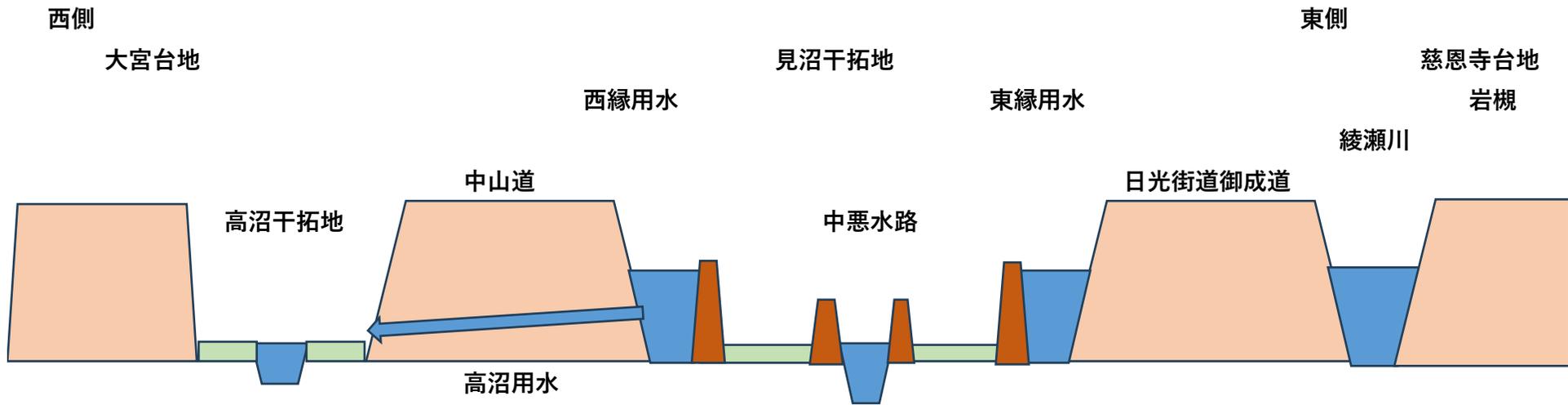
八間堰から柴山伏越までは両側が低地のため、築樋(つきどい)
(または築越(つっこし))で構築されている。

瓦葺(かわらぶき)掛渡井(かけどい)

- ・ 見沼通船が通航できるように、綾瀬川を水路橋で横断していた。
- ・ 現在は伏越(サイフォン)に改築されている。



見沼干拓・西縁用水・東縁用水イメージ図



高沼川

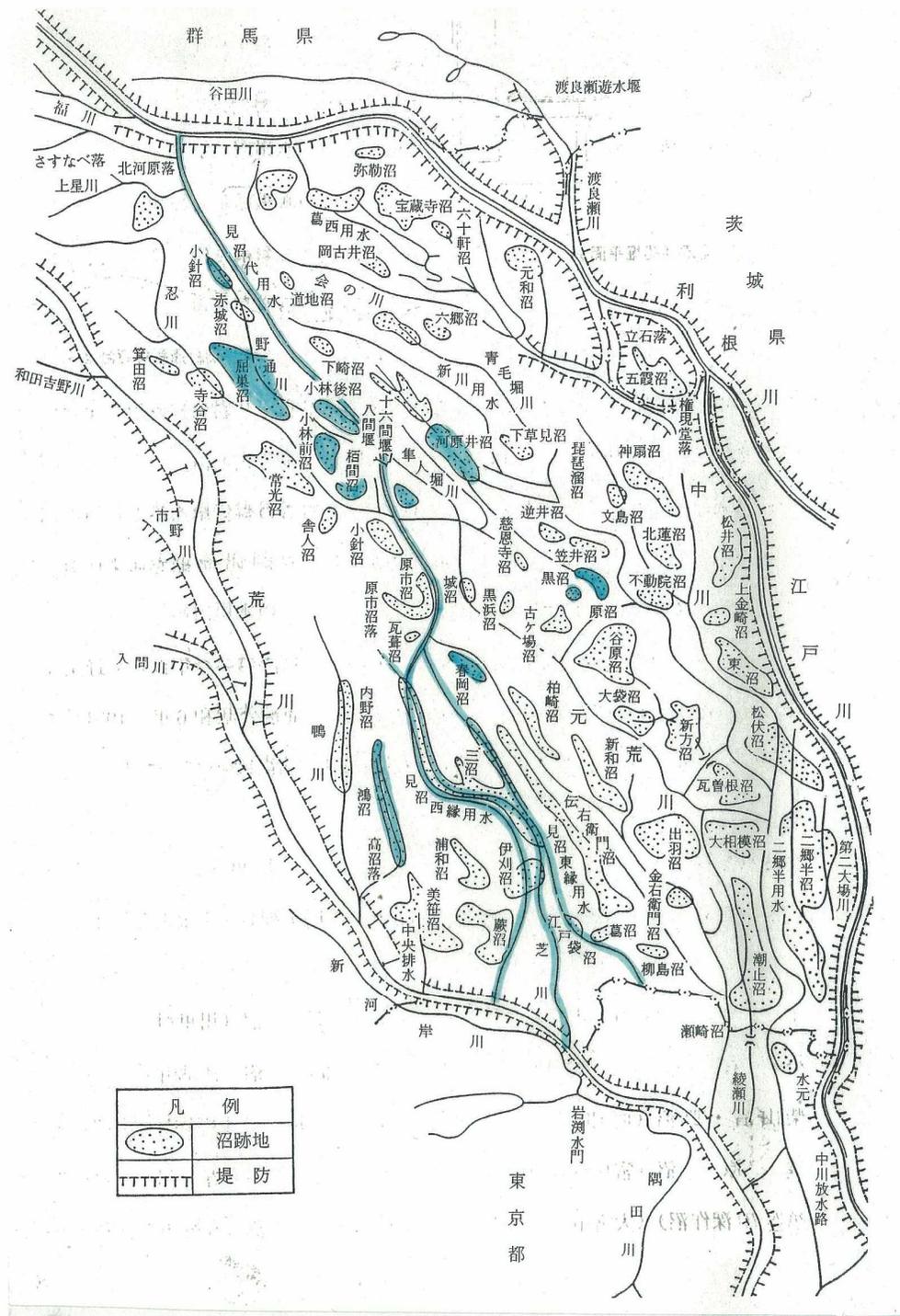
高沼用水は中山道の下を掘り抜いて通された。現在のさいたま新都心駅のホームの南側の下をトンネルで通過している。直前まではV字谷で開削されている。



隅田川・神田川
秋葉原の筋違御門近傍の見沼通船会所

西縁用水・東縁用水と中悪水路（芝川）との水位差が3mあるので、舟運ができるように見沼通船堀が構築された。（パナマ運河と同じ閘門式）

（作図：市川）



同時に干拓された主な沼 と開削された用水

- 小針沼
- 屈巢沼 (くすめま)
- 小林前沼
- 小林後沼
- 河原井沼 (→ 中島用水)
- 栢間沼 (かやまぬま)
- 笠井沼 (→ 笠井沼用水)
- 黒沼 (→ 黒沼用水)
- 見沼 (→ 東縁用水、西縁用水)
- 鴻沼 (高沼) (→ 高沼用水)

高沼(鴻沼)干拓と高沼用水



西縁用水
から分水



見沼代用水の水路勾配の記述の疑問点

- ・ 見沼土地改良区史によると、見沼代用水の水路勾配は 「…長さ30間に対して、高さ3寸下がり…」と 記述されている。浦和市立博物館発行の「見沼その歴史…」でも同じ記述となっている。

- ・ 『水の匠、水の司』（高崎哲郎著）でも、この記述を引用していると思われる。

これは、メートル法でおおよそ換算すると

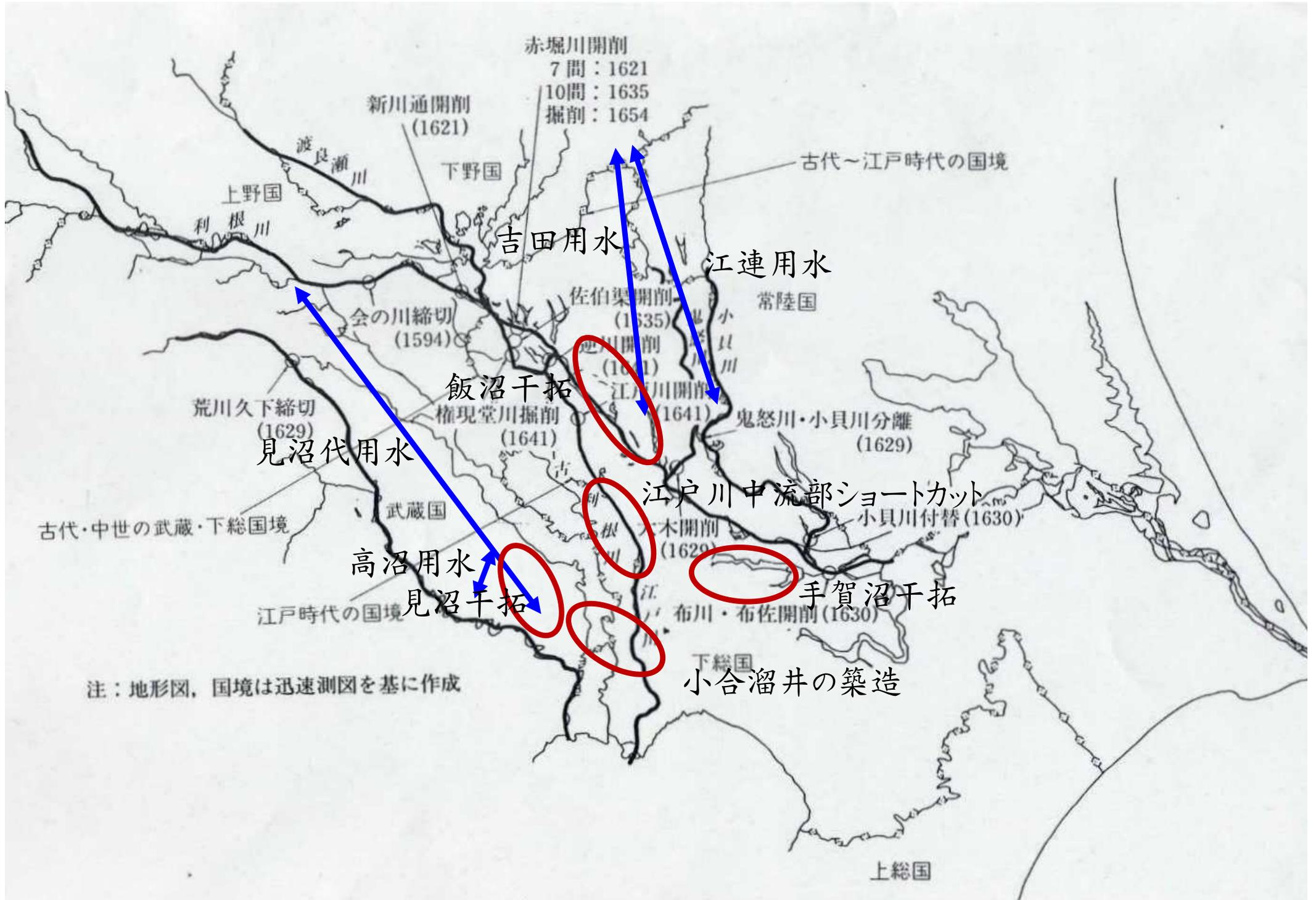
$$9\text{cm} / (30 * 180\text{cm}) = \text{約} 1 / 600 \quad \text{となる。}$$

しかし、この数値は埼玉県内低平地を流れる中川の平均勾配1/4000と比較すると、1ケタもオーダーが異なりかなり不合理である。

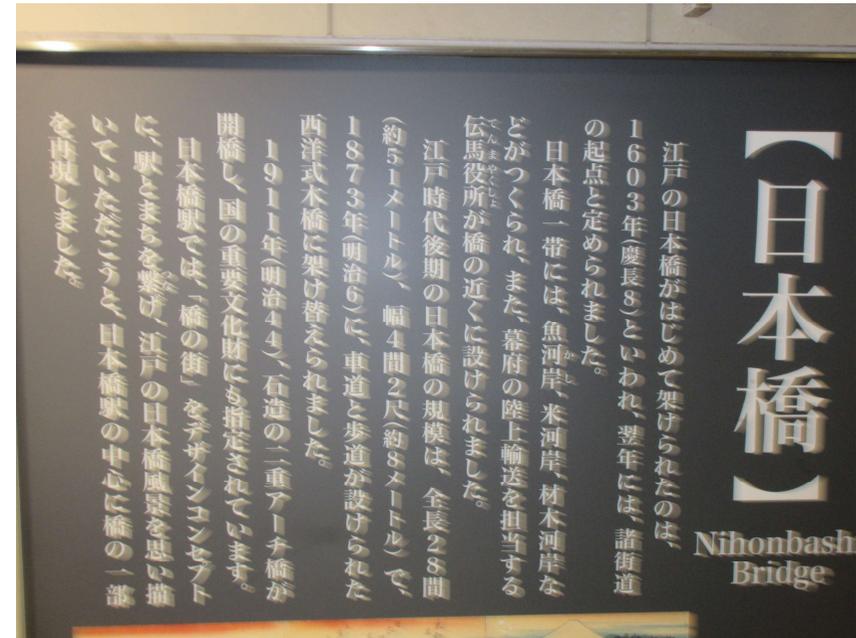
取水地点である利根大堰の堤防高の標高が、約A.P. 20mである。もし、下流側から1/600の勾配で水路が構築されているとすると、幹線水路延長約53kmの上流地点では、何と約90mもの地点標高になることになり、明らかに不自然である。

参考図書として、『利根川 その治水と利水』（佐藤俊郎著）によると、見沼代用水の各区間の河床勾配の具体的な数値として、上流部で1/2500～1/3000、東縁用水1/5000、西縁用水1/4000などの数値が並んでいる。また『井澤弥惣兵衛の業績』（青木義修）では、見沼代用水の河床勾配の具体的な数値として、1/4000～1/5000としている。

井澤弥惣兵衛為永の関東地方の主な業績の場所



日本橋の高札



1722(享保7年)日本橋に、新田開発の願い出を認める高札が掲げられた。

飯沼干拓



1725(享保10年)1月着工～1729(享保14年)完成



東仁連川・東側の用水路、及び台地からの山水・悪水の排水

新堀:幸田、神田山(かどやま)の台地をV字谷で開削して菅生沼に落とし、利根川に排水する経路で開削された飯沼川



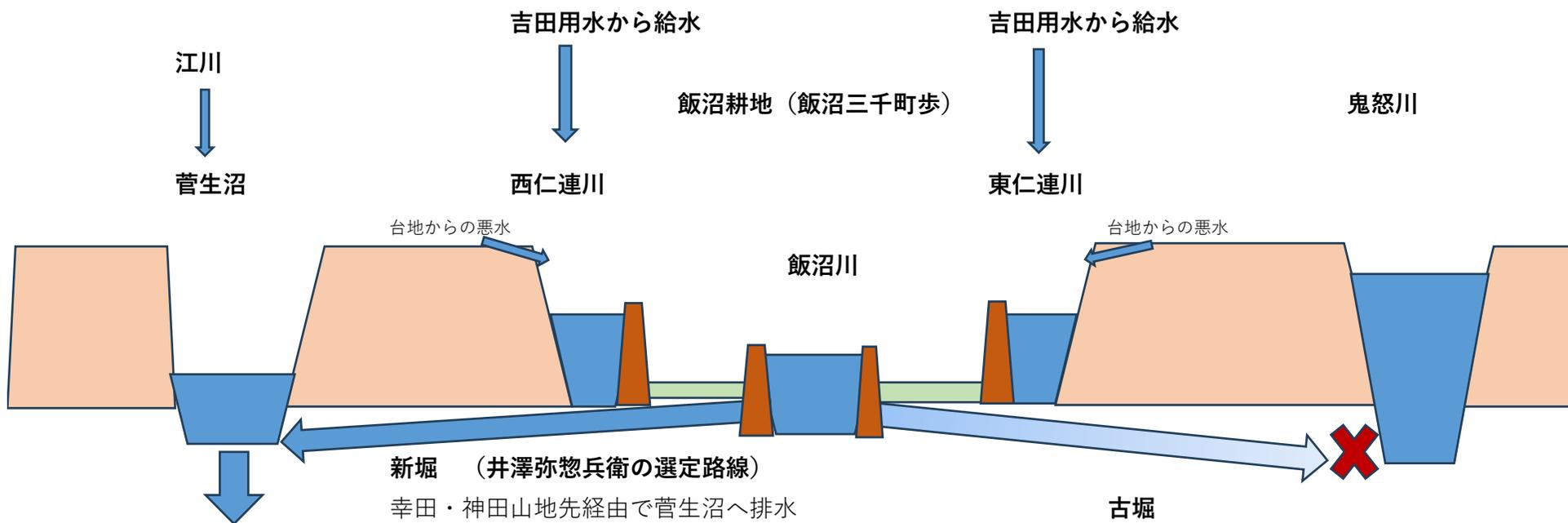
飯沼川(中央排水路)

俗に飯沼三千町歩と呼ばれる。実際は、検地で1,525町歩が記録された。



飯沼川の現在のメイン排水は西仁連川にポンプ排水されている。左側が西仁連川・西側の用水路、及び台地からの山水・悪水の排水

飯沼干拓イメージ図



利根川へ排水

その後、天明3年の浅間山噴火に伴う利根川の河床上昇で排水不良となった。

明治時代には、利根川からの逆流防止のための反町閘門が建設された。

現在は、菅生沼の出口に、法師戸水門が直轄で改築された。

古堀

鬼怒川の洪水による自然堤防で排水地点が閉塞してしまうので、不採択。

現在は、飯沼耕地からの排水は、主に、圏央道橋梁付近の幸田排水機場から西仁連川に排水されている。

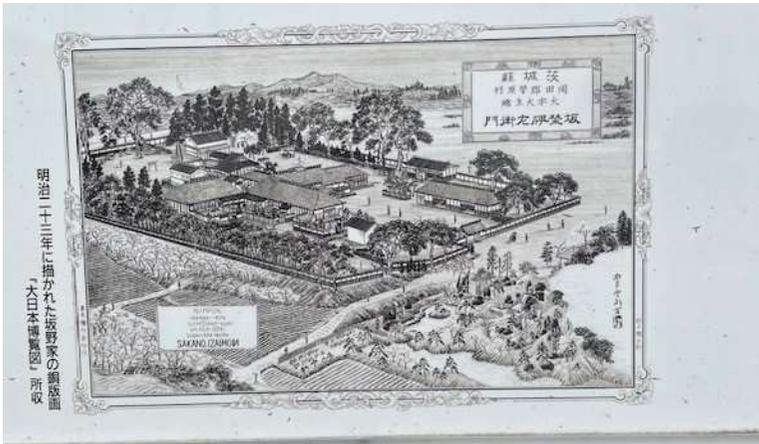
他に近年の湛水防除事業で、飯沼耕地の中流部で、鬼怒川にも排水機場で排水されている。

(作図：市川)

坂野家住宅(水海道風土博物館)



飯沼干拓に尽力した4人の頭取の一人、大生郷村の名主坂野伊左衛門の住宅。
大河ドラマのロケ地として度々利用されている。飯沼干拓に関する資料展示は無し。



飯沼周辺の名主達が決意を示した沓掛香取神社



飯沼の右岸(西側)の猿島台地に鎮座。飯沼の鎮護の神。
(圏央道坂東インター近傍)

1724(享保9年)、飯沼干拓を遂行するために、飯沼周辺の24ヶ村の名主や組頭144名が沓掛香取神社に集合して血判状(起請文)を作成・奉納して、干拓事業の完成を祈願した。
(新堀派の結束)(利根川に向かって新規排水路を開削する路線案)

飯沼下流側の3ヶ村は、鬼怒川に向かって閉塞している出口を開削する古堀路線案に固執して、この干拓計画には加わらなかった。(古堀派)

利根川からの逆流防止の施設



飯沼川は江川・菅生沼に対して、東側の神田山側の斜面林に沿って、背割堤で平行して流下。

飯沼からの新堀が開削されて、菅生沼への流入箇所には、利根川からの逆流防止のために、神戸山(かどやま)地先の斜面林に沿って新堤防が築造された。

しかしながら、新堀の計画は、利根川と飯沼の平水時の水差位で設計されていたため、利根川の度重なる洪水時には、飯沼干拓地まで、しばしば逆流して、さらに1783(天明3年)の浅間山噴火に伴う火山灰による利根川河床の上昇で、深刻な湛水被害が常襲する事態となった。

明治33年に反町閘門や昭和12年に幸田排水機場が建造されて、ようやく湛水被害が軽減された。昭和30年に菅生沼の出口に法師戸水門が建造されて、利根川からの逆流が防止できた。

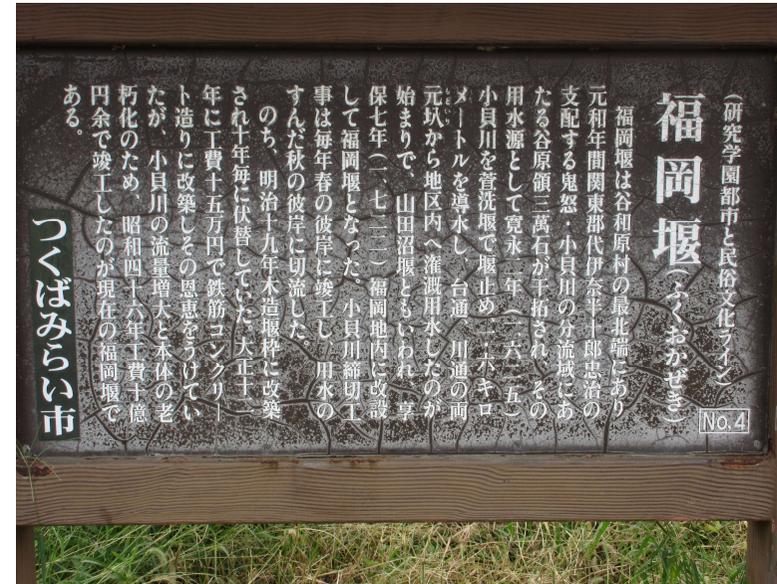
飯沼川と菅生沼の間に、1900(明治33年)に建造された反町閘門(写真は茨城県自然博物館の園内に復元されたもの)



平成15年改築の現在の法師戸水門(菅生沼の出口・直轄事業)



小貝川・福岡堰改築（関東流の山田沼堰を廃止）



1722(享保7年)、関東流の山田沼堰を廃止して、2km下流側に福岡堰を改築



根用水。
左岸側が、山付きの洪積台地で、安定して取水と水路維持ができる。



福岡堰の左岸側にある伊奈神社

吉田用水の開削



1724(享保9年)～
1725完成
延長56k
m



受益自治体:
結城市、
八千代町、
下妻市(旧千代川村)、
常総市(旧水海道市)、
坂東市(旧岩井市)、
古河市(旧三和町)

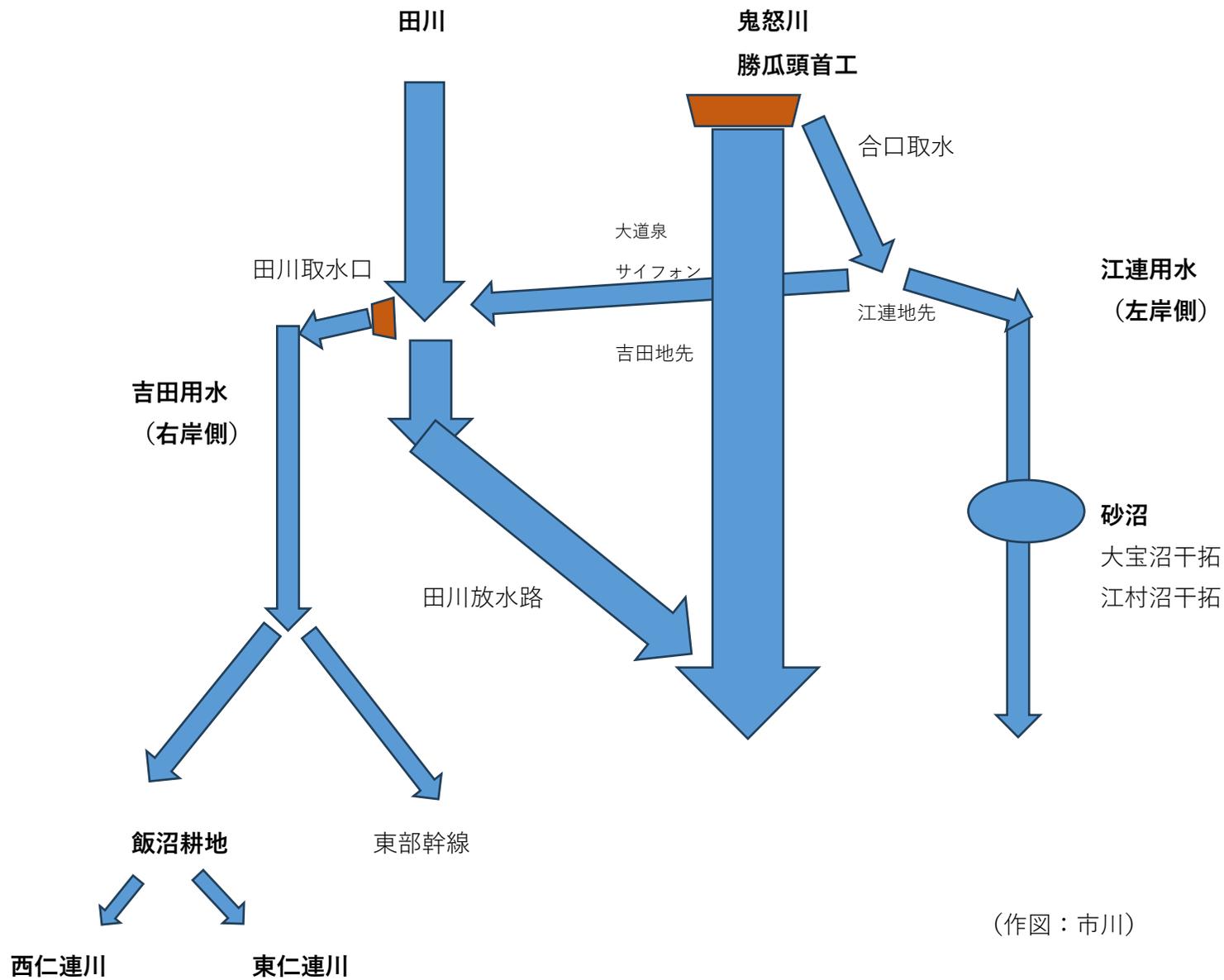
鬼怒川右岸・現在の設備の大道泉伏越を過ぎた吉田地先の水路(栃木県下野市元吉田:江戸時代の取水地点推定場所)



田川からの取水地点の取水口(左側)



吉田用水と江連用水イメージ図



(作図：市川)

江連用水の開削



1726(享保11年)、江連用水開削延長38km

鬼怒川勝瓜頭首工(栃木県真岡市:現在は江連用水と吉田用水の合口取水)

江戸時代の取水口は、現在の真岡市江連地先

水利使用標識	
河川名	利根川水系鬼怒川
許可年月日許可番号	平成29年 3月14日 国関整水第298号の3
許可期限	平成37年 3月31日
許可権者名	国土交通省関東地方整備局長
水利使用者名	農林水産大臣
水利使用の目的	かんがい用水(勝瓜頭首工)
取水量	18.95m ³ /s
貯留量	
かんがい面積	9,070.6ha
取水施設管理者	筑西市長
所轄事務所名	国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所

受益自治体:
筑西市、下妻市、常総市(石下町、水海道市)

江戸時代初期に、関東郡代伊奈忠治が、四箇用水と八間堀川を開削した地域の再開発



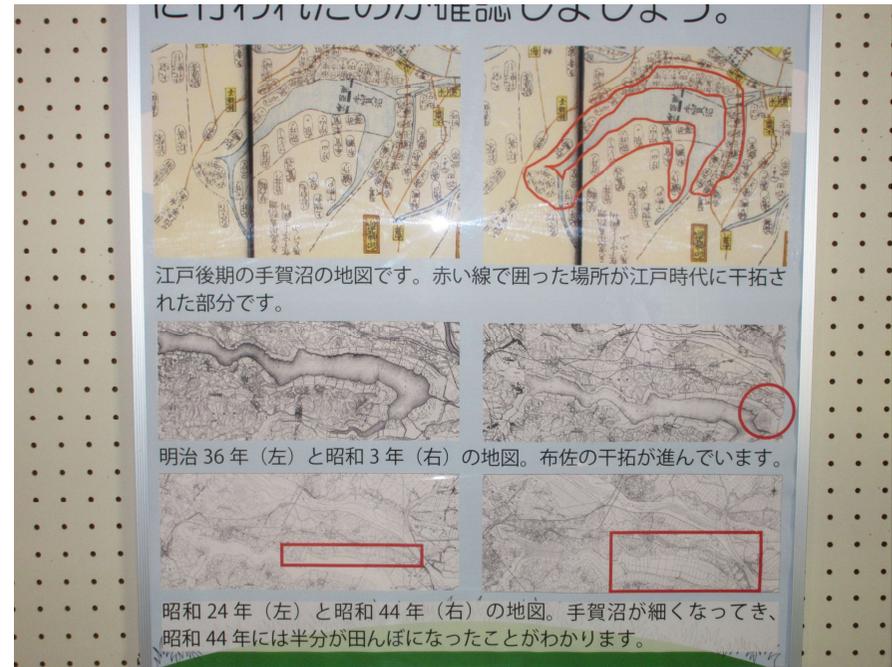
鬼怒川の左岸側が江連用水、右岸側が吉田用水

手賀沼干拓



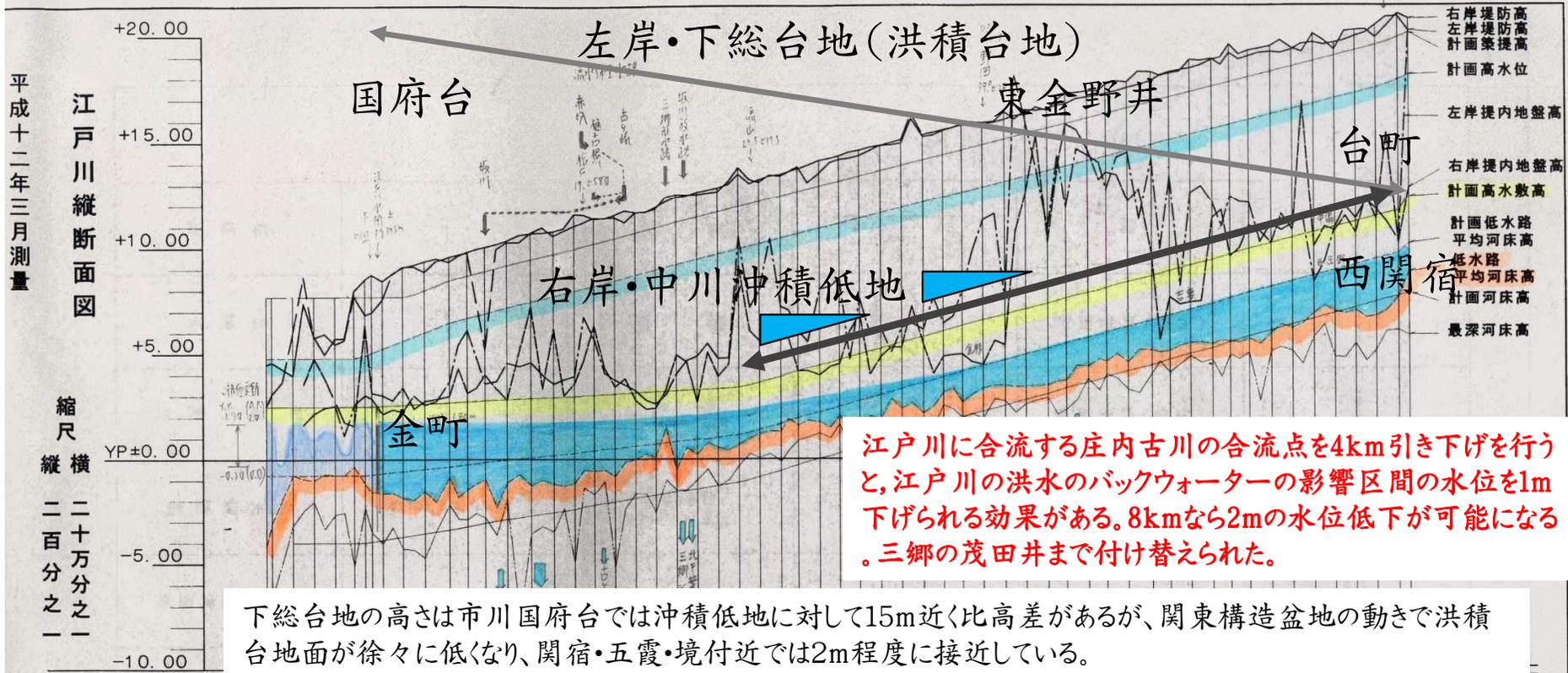
1729(享保14年)
手賀沼干拓を指導

左側の道路が千間堤(浅間堤)(長さ1.8km)



江戸川の両岸の標高イメージ

江戸川右岸側堤内地＝中川流域の沖積低地の中流部の勾配は、概ね1/4000であるので、見沼代用水路の平均的な勾配もオーダー的にほぼ同程度と推定される。



下総台地の高さは市川国府台では沖積低地に対して15m近く比高差があるが、関東構造盆地の動きで洪積台地面が徐々に低くなり、関宿・五霞・境付近では2m程度に接近している。

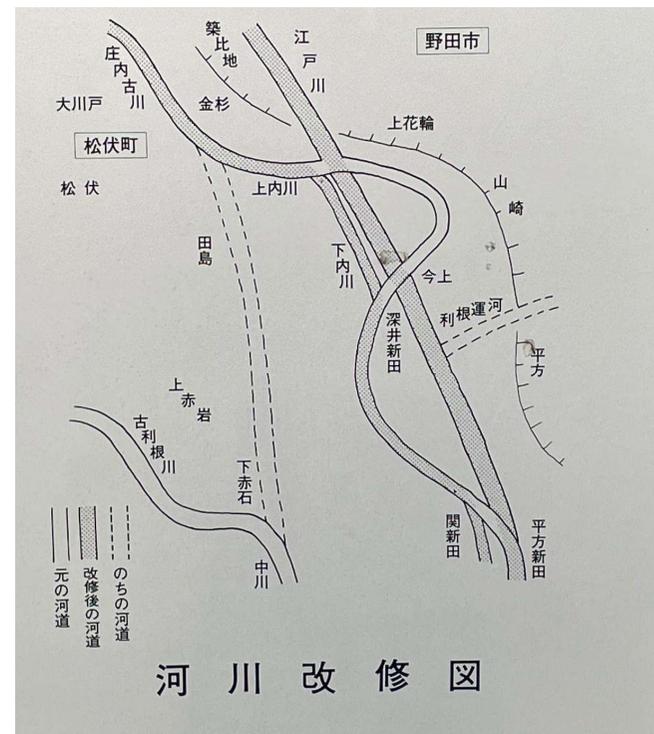
距離標	計画低水路平均河床高	計画河床高	計画高水敷高	計画高水位	計画築堤高
-1.8	8.750	4.800	2.500	4.800	7.700
0.0	0.750	4.000	2.500	4.800	7.700
1.0	0.750	4.000	2.500	4.800	7.700
2.0	0.750	4.000	2.500	4.800	7.700
3.0	0.750	4.000	2.500	4.800	7.700
3.5	0.747	3.995	2.501	4.918	7.700
9.5	0.721	3.956	2.514	5.061	7.700
10.0	0.668	3.875	2.539	5.252	7.700
11.0	0.564	3.715	2.599	5.619	7.699
13.0	0.353	3.393	2.688	5.480	8.480
14.0	0.249	3.235	2.737	5.694	8.594
15.0	0.140	3.068	2.789	6.903	8.903
16.0	0.028	2.898	2.842	7.191	9.191
17.0	0.081	2.732	2.893	7.472	9.472
18.0	0.180	2.581	2.940	7.741	9.741
19.0	0.278	2.431	2.986	7.987	9.987
20.0	0.415	2.222	3.051	8.227	10.227
21.0	0.510	2.076	3.096	8.475	10.475
22.0	0.629	1.895	3.153	8.725	10.725
23.0	0.712	1.768	3.192	8.971	10.971
24.0	0.837	1.578	3.251	9.226	11.226
25.0	0.933	1.431	3.296	9.471	11.471
26.0	1.037	1.273	3.346	9.714	11.714
27.0	1.143	1.111	3.396	9.958	11.958
28.0	1.392	0.854	3.638	10.201	12.201
29.0	1.666	0.573	3.904	10.453	12.453
30.0	1.935	0.297	4.166	10.657	12.657
31.0	2.211	-0.013	4.434	10.913	12.913
32.0	2.477	0.260	4.693	11.147	13.147
33.0	2.747	0.538	4.956	11.385	13.385
34.0	3.020	0.818	5.222	11.633	13.633
35.0	3.307	1.112	5.501	11.879	13.879
36.0	3.574	1.387	5.761	12.134	14.134
37.0	3.845	1.665	6.024	12.369	14.369
38.0	4.113	1.940	6.285	12.592	14.592
39.0	4.385	2.220	6.550	12.840	14.840
40.0	4.646	2.488	6.804	13.102	15.102
41.0	4.913	2.762	7.064	13.353	15.353
42.0	5.181	3.037	7.324	13.614	15.614
43.0	5.456	3.320	7.592	13.830	15.830
44.0	5.703	3.573	7.832	14.092	16.092
45.0	5.963	3.840	8.085	14.311	16.311
46.0	6.238	4.123	8.353	14.564	16.564
47.0	6.505	4.397	8.612	14.851	16.851
48.0	6.766	4.665	8.867	15.066	17.066
49.0	7.034	4.940	9.127	15.313	17.313
50.0	7.286	5.199	9.372	15.572	17.572
51.0	7.562	5.482	9.641	15.784	17.784
52.0	7.832	5.760	9.904	16.006	18.006
53.0	8.102	6.037	10.167	16.266	18.266
54.0	8.373	6.316	10.430	16.514	18.514
55.0	8.643	6.593	10.693	16.768	18.768
56.0	8.906	6.863	10.948	17.015	19.015
57.0	9.166	7.130	11.202	17.262	19.262
58.0	9.432	7.403	11.461	17.506	19.506
59.0	9.697	7.675	11.718	17.890	19.890
59.5	0.159	7.813	12.504	18.094	20.094

江戸川中流部のショートカット、庄内古川の合流点引き下げ

1728(享保13年)江戸川中流部のS字蛇行区間をショートカット、庄内古川を分離して合流点引き下げ

金杉

深井新田



しん と ん が わ り と ん が わ り じ ゅ う そ り
新利根川碑(砥根河重疏碑)

昭和55年4月2日指定
 松伏町指定有形文化財

寛永18(1641)年に開削された江戸川は、庄内領金杉村で庄内古川につながれました。このため、庄内領を始めとする近隣の村々は水害に苦しみました。金杉村の名主飯島貞嘉の祖父は、この惨状に河川改修工事を幕府に嘆願しましたがかなえられず、孫の貞嘉の代によりやく念願が果たされました。

享保13(1728)年、庄内古川は江戸川から切り離され、江戸川と並行して流れるように改修されました。これにより、一帯は大きな水害から解放され、その喜びを永く後世に伝えるため、飯島貞嘉が中心となって元文元(1736)年にこの石碑を建立しました。石碑には、建立の事情を語る銘文が刻まれています。亀の形に刻まれた台石(亀跌といいます)は形態的に優れ、石像美術としても貴重と言えます。

ちなみに地元では「河童石」の呼称で水神としても親しまれています。

河川改修図

八潮市

江戸川

綾瀬川の開削 (1727)

新大塚川水門(内)

新大塚川水門(外)

銀ヶ又

新宿

市川(根本(外))

草加市役所

依右衛門

依右(外)

内匠橋

新大塚川

荒川本線

綾瀬川の浮塚地先のショートカット

綾瀬川の開削・寛永年代(1624~1643)

足立区

足立区役所

葛飾区

中川の開削・享保14年(1729)

上平井水門(下)
(東京都)

上平井水門(上)
(東京都)

荒川放水路の開削

綾瀬川

綾瀬(沈砂池)
開削(外)

千住

能谷

堤

岡田

堤

墨田区

荒川

荒川区

日本堤



小合溜井の構築、古利根川の江戸川合流点の締め切り、中川下流部の開削



木曾三川の分流計画策定

1735(享保20年)、美濃郡代の兼帯(兼務)を命じられる。73才。

美濃の笠松陣屋に赴任して、1736(元文元年)木曾三川の分流計画を策定する。

- 揖斐川と長良川を油島の背割り堤防で分離。(千本松原)

- 揖斐川には長良川の洪水の一部を流入させる。

◎長良川から揖斐川に洪水の一部を分派する大樽川(おおぐれがわ)洗堰の設計

→薩摩藩による宝暦の治水(お手伝い普請) (家老平田靱負は過大な支出の責任を取って切腹)

*「薩摩洗堰は、完成後、わずか二ヶ月で機能不全となった。右岸側の高水敷に迂回流が発生して、洗堰の越流機能が役立たなくなった。

「濃尾傾動運動」と呼ばれる地形の動きで、西側の養老山地が隆起して、濃尾平野の西側が低くなり、東側の台地が高くなる地殻運動。結果として、揖斐川が一番河床が低く、長良川から洪水の一部が奔流となって流入していた。

さらに木曾川との合流点から長良川に木曾川の洪水がせき上げ・逆流(バックウォーター)が生じていた。

河口部まで三川分流が完了したのは、デ・レーケの指導による明治期の改修工事で完成。ケレップ水制が今でも残存。

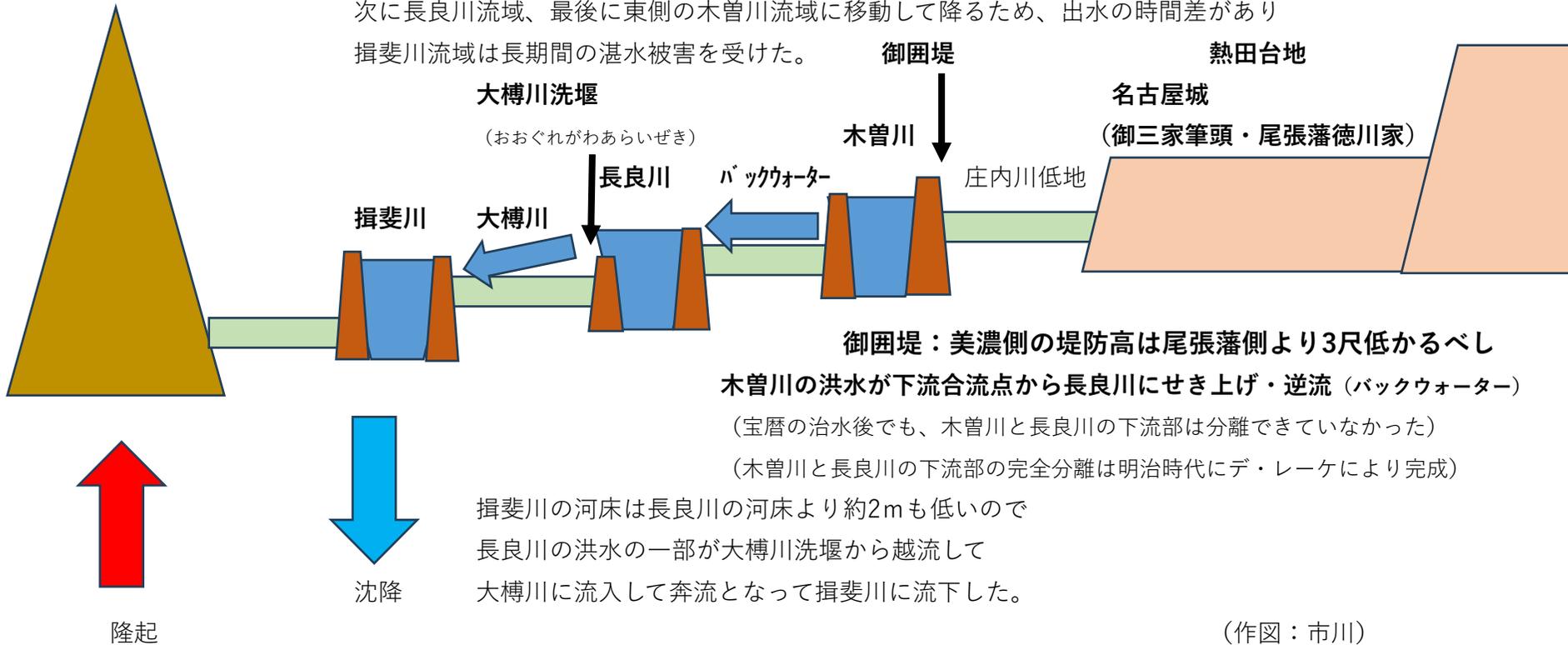
木曾三川、濃尾平野と濃尾傾動運動イメージ図

西側
養老山地

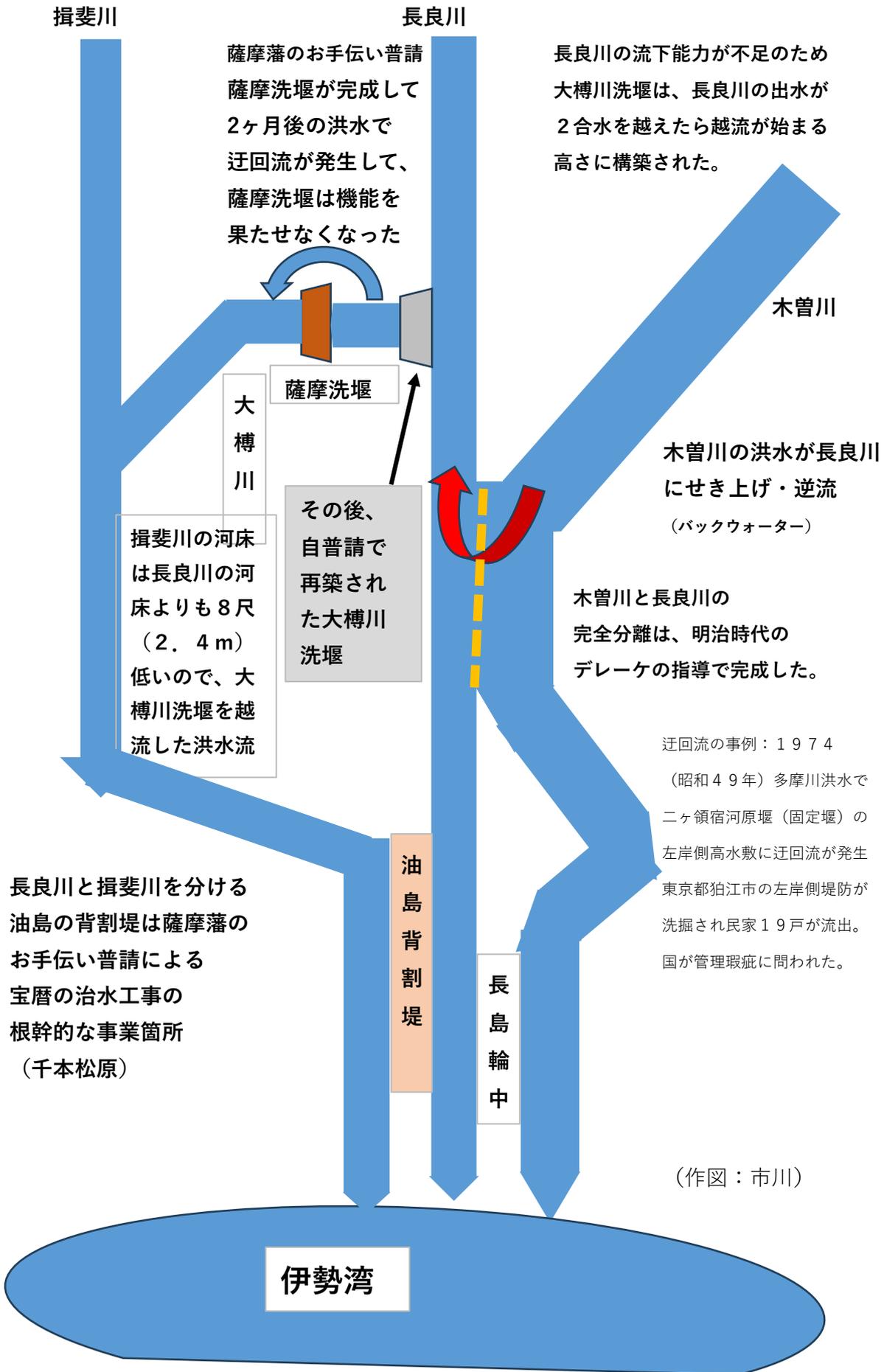
東側
尾張丘陵

濃尾平野は、西側の養老山地が地殻変動で隆起傾向にあり、濃尾平野の低平地は西側ほど沈降傾向にある。

台風などの大雨は、雨域の動きが西側の揖斐川流域から最初に降り始めて次に長良川流域、最後に東側の木曾川流域に移動して降るため、出水の時間差があり揖斐川流域は長期間の湛水被害を受けた。



木曾三川と大樽川（おおぐれがわ）洗堰のイメージ図



井澤弥惣兵衛為永の紀州流の師・大畑才蔵

- 紀州藩の地方巧者(じかたこうしゃ)
- 現在の和歌山県橋本市生まれ。
- 年齢は、井澤弥惣兵衛よりも21才年長。
- 大庄屋の補佐である「杖突」に任命される。
- 1696(元禄9年)紀州藩普請方手代に任じられる。
- 藤崎井用水開削、小田井用水開削、新川用水開削などに従事。
- ◎水準測量の水盛器を考案。精度の高い測量が可能になった。
- ◎掛渡井(掛け樋、伏越、丁場割り、河岸段丘と低地の境界を路線選定するなど、紀州流の工事手法の原点を具体的に実現。
- 1720(享保5年)逝去。享年79才。

井澤弥惣兵衛為永の嫡男楠之丞正房と部下達について

井澤弥惣兵衛の嫡男・楠之丞正房

- 父に同行して江戸に赴任。
- 見沼干拓の際も、父に同行して萬年寺に宿泊して、業務を補佐する。
- 1731(享保16年)、見沼の排水路である芝川の荒川吐口の逆流防止の逆水樋門を構築。難工事であったといわれる。(後年になって、荒川の洪水で破壊される)
- 父の死後、後継者となり、1747(延享4年)、勘定吟味役に任じられる。
- 1753(宝暦3年)、三河の吉田橋普請で仕事に不手際が発生して、降格となる。

井澤弥惣兵衛の部下達

- 保田太左衛門 土木技術者
- 塩路善太郎 土木技術者
-
- 黒鍬者(くろくわもの) 熟練の土木作業員

井澤弥惣兵衛為永の事業推進に尽力した名主、町人達

◎見沼干拓関係

- 高田茂右衛門 紀州出身。後に、見沼通船堀の差配役に任命される。
- 鈴木文平(高田茂右衛門の実弟)後に、見沼通船堀の差配役に任命される。
(現在、見沼通船堀のそばに、居住している。)
- 加田屋 坂東家 紀州出身。見沼の北東側の干拓を先行して実施、一度は元の沼地に戻されてしまう。(現在、旧坂東家住宅が見沼クラシック館として保存されている。干拓展示あり)

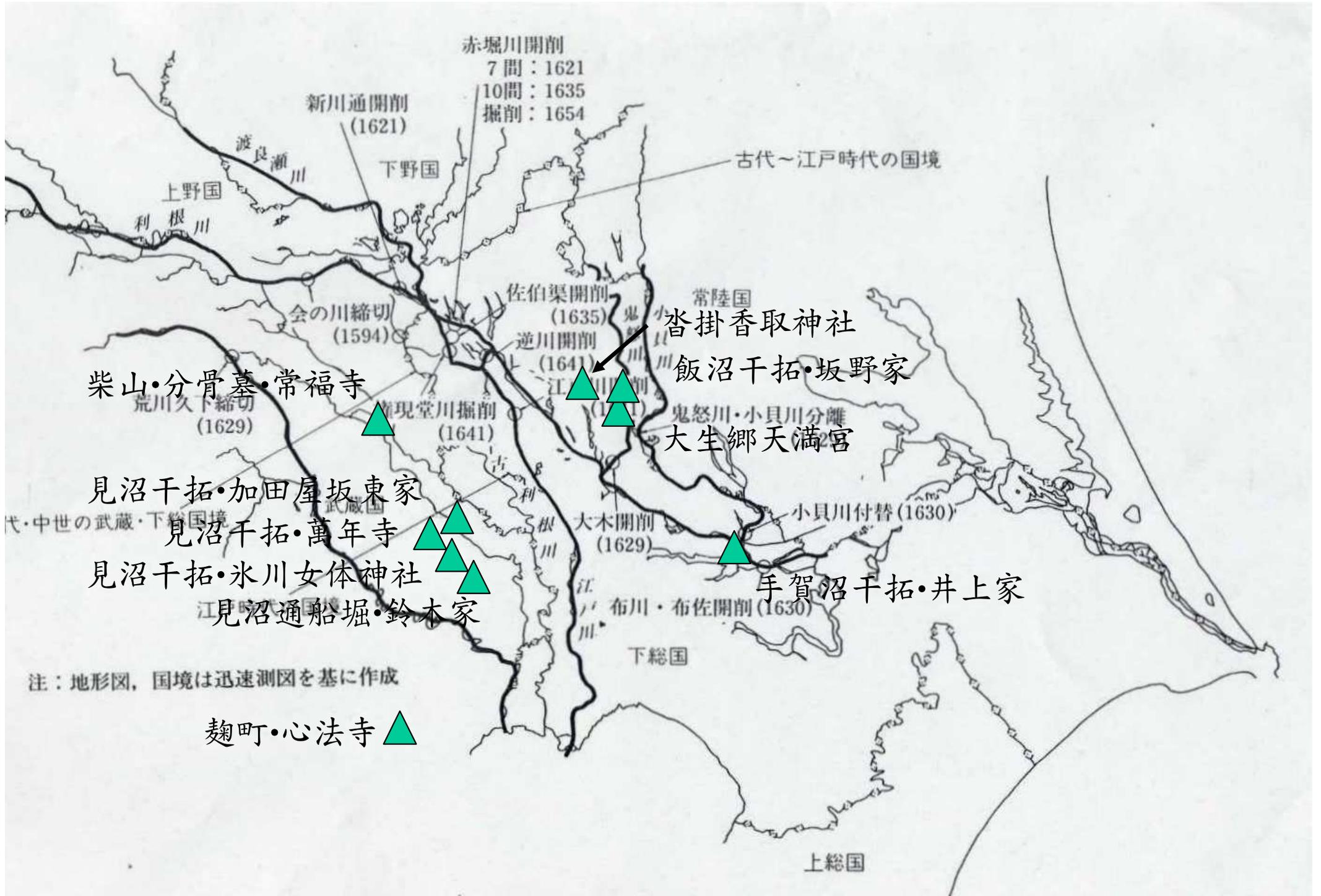
◎飯沼干拓関係

- 秋葉左平太 尾崎村名主(八千代町)
- 秋葉三太夫 崎房村名主(常総市石下)
- 秋葉源次郎 馬場村名主(常総市石下)
- 坂野伊左衛門 大生郷村名主(常総市水海道) (現在、坂野家住宅が常総市の水海道風土博物館として保存されている。干拓の展示無し)

◎手賀沼干拓

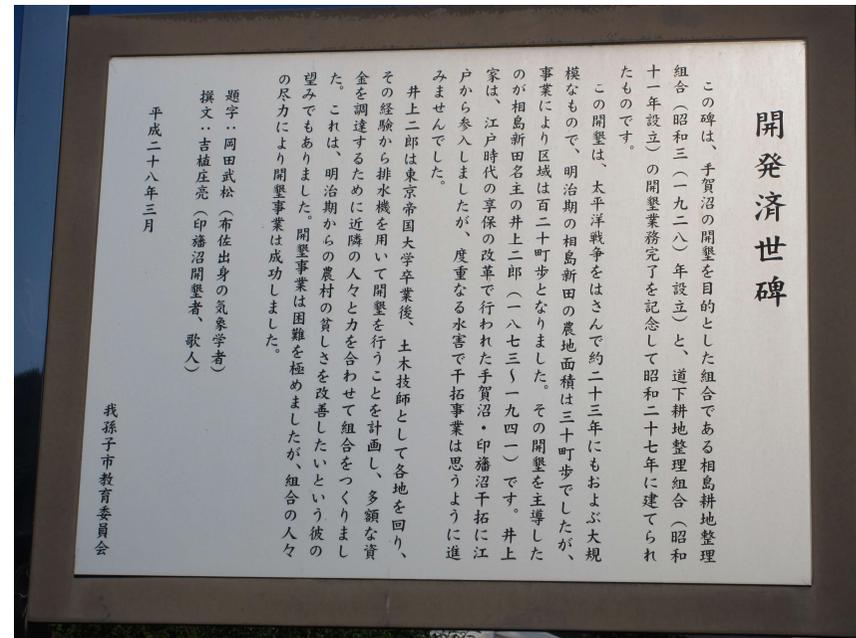
- 井上家 江戸の町人出身。布佐に移住して手賀沼干拓に専念。(現在、我孫子市の資料館として保存されている。干拓展示あり)

井澤弥惣兵衛為永の関東地方の主な関連の場所



注：地形図，国境は迅速測図を基に作成

手賀沼干拓に尽力した旧井上家



見沼干拓に尽力した加田屋・旧坂東家



坂東家の歴史

町人から名主へ

坂東家の屋号は「加田屋」です。江戸の町人だった初代助右衛門尚量の出身地（紀州）に由来しています。

- 初代** 江戸に住み、灌漑用に利用していた見沼灌井の一部を「入江新田」に造成しました。
- 二代目** 当地に移住しましたが、近隣の村々の反対により、入江新田を灌井に戻しました。
- 三代目** 見沼一帯の新田開発に伴い、入江新田を再開発して「加田屋新田」と称し、加田屋新田の名主となりました。
- 十代目** 坂東家住宅を新築しました。

【坂東家の主な出来事】 4～9、11代及び15代以降は省略

代	名前	元号	西暦	主な出来事
1	助右衛門尚量	正保元年 (1644)	延宝3年 (1675)	江戸の北新堀（日本橋）に住む片柳村～藤子村間の見沼灌井を干拓して「入江新田」（52町6反余）を開墾する
2	四郎左衛門尚政	享保4年 (1707)	享保3年 (1718)	江戸から二代目を連れて移住する 入江新田取壊しの訴訟に敗れて元の灌井に戻す
3	助右衛門尚常	享保12～13年 (1727～28)	享保14年 (1729)	勘定吟味役井次郎徳兵衛為永が見沼灌井を開発し、見沼代用水を開削する 入江新田を再開発して「加田屋新田」（65町2反4畝）と称する。以輔見守役に任用されて代々継承する
10	助次郎	安政4年 (1857)		坂東家住宅を新築する（長者柱の墨書による）
12	重次郎	明治22年 (1889)		加田屋新田が片柳村と合併する
13	新助	大正11年～昭和17年 (1922～1942)		片柳村長を務める
14	貞市	昭和26～29年 (1951～1954)		片柳村長を務める 昭和30年に大宮市と合併

坂東家文書 さいたま市指定有形文化財（歴史的資料）
享保16年（1731年）の緑地帳をはじめとした租税や新田の水利、旧片柳村村政の古文書など、当家に伝わる5,152点の貴重な史料
埼玉県立文書館寄託

加田屋新田地図（坂東家文書）

さいたま市 指定有形文化財(建造物)

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

当館は、さいたま市指定文化財「旧坂東家住宅」を中心に、かつての農家のすがたを再現する博物館施設です。主屋内の公開のほか、当地で行われてきた年中行事の再現、昔のくらしの体験学習、古民家を活用した催しなど、様々な博物館活動を行っています。館の北側には産樹林が、東側には見沼たんぼが広がり、のどかで緑豊かな自然環境を有しています。

（中庭は有期禁）

【旧坂東家住宅】の概要

種別 有形文化財（建造物）(1棟)
指定年月 平成25年10月16日
所在地 さいたま市東区見沼1285-2
所有者 さいたま市

種別 指定有形文化財（歴史、中庭等）(1-10区画)
指定年月 昭和7年(1932.7.7)
種別 指定有形文化財（歴史）(1区画)
指定年月 昭和26年(1951.4.10)
所有者 さいたま市

■開館時間 午前9時～午後4時30分
■休館日 月曜日（祝日は除く）
祝日の翌日（土・日・祝日を除く）
年末年始（12月28日～1月4日）

■入館料 無料

自由に内部を見学できます
館内は禁煙・火気厳禁です
ペットの入館はお断りします

館内配置図

見沼たんぼ周辺案内

問い合わせ先
さいたま市 文化財保護課
みどり推進課見沼田圃政策推進室
見沼たんぼのホームページ
<http://www.minumatanbo-saitama.jp/>

TEL 048-829-1111(代)

さいたま市

見沼通船差配役・鈴木家住宅

- 江戸時代後期の文政年間(1820年頃)に鈴木家が八丁河岸に出向いて通船差配を直接行うようになった。
- その当時に建築された旧家。
- 後ろ側に米蔵と納屋がある。
- その裏手が通船堀(西縁)
- 手前の道路は八丁堤
- 皇太子殿下の行啓の休憩場所となった。
- 元駐米大使の大河原良雄氏が応対(当主鈴木甫氏の母方の叔父)



井澤弥惣兵衛のお墓のある心法寺(麴町)



じょうえいさん しんぼうじ
常栄山 心法寺
Joeisan - Shinpoji Temple

心法寺は、1597年（慶長2年）に開かれた浄土宗寺院で、開山は然翁聖山上人、開基は徳川家康になります。江戸時代以来数多くあった区内の寺院は、災害・戦災・開発によって区外へ移転していきましたが、当寺はこの地にとどまり続けました。現在心法寺は区内で最古の歴史をもち、墓域を有する唯一の寺院となっています。

歴史ある当寺には貴重な文化財もまた数多く残されています。区指定文化財となっている木造阿弥陀如来坐像、紙本着色仏涅槃図はじめ、境内には同じく指定の銅製梵鐘、水盤、庚申塔があります。墓域にも区内唯一の大名家墓所である下野皆川藤松平家墓所、新田開発や河川改修などで功績をあげた幕臣井澤弥惣兵衛墓碑が指定されています。

四ッ谷門内の心法寺
Location map of Shinpoji Temple
[江戸切絵図] 1858年（安政5年）
千代田区教育委員会所蔵



常栄山心法寺は、浄土宗の寺院で、現在の千代田区内では墓域を有する唯一の寺院です。もともと心法寺は、徳川天皇の頃三河国に開かれた寺院で當時の寺号は「宝寺」とされていたとされています。その後、慶長二年（一五九七）江戸麴町の地に二千余坪の寺地を譲り、改めて法寺を起立しました。

この心法寺に伝えられる本尊「木造阿彌陀如来坐像」は、像高一〇九・〇（三二尺五寸九分）、ヒノ材密木造りで漆箔を施し、おおむね十二世紀末から十三世紀前半頃までの製作と考えることが出来ます。すなわち本像の像容・面像は平安時代後期、十一世紀に仏師定朝が完成した定朝式に基的にならうもので、密木造りの手法にも、その時期の特色を認められますが、胸腹線など厚く重感をもった体軀などには、鎌倉時代初期に成立した新様式の影がうかがわれます。このことからすれば、本像は鎌倉時代には腕の全部など補修部分が多く、製作当初の像容をかなり損ねており、従って製作年代の確定を困難にしているものも否めません。しかし平安時代後期彫刻の面影をのこす鎌倉時代初期の等身大をうまわる大きさの像が紙本着色 仏涅槃図に遺存することは、貴重な事例です。

心法寺には、紙本着色 仏涅槃図も伝わっています。本件は、安羅双樹の下で釈迦が入る姿を描いた仏画です。中央の釈迦には箔が貼られ、肉身は黒、衣服の線は朱筆で入れられています。画面は、縦一八二・七〇横一五八・四〇の画面上部の構成は、仏画の典型に従っており、類型的に描かれています。これに対し、画面右下段の部分には、多くの鳥獣が凝縮して描かれています。これら動物は釈迦の入滅に際して泣き、悲しみを露して描かれています。本図ではほとんどの動物が書き置きせず冷静な姿で、いわば写実的、博物学的に描かれています。そしてこのような博物学的な主題の風情が高まるのは、一般に享保時代以降とされています。また中には、「伯耆回」の享保歌があります。この巻詞については、『武五年表』元文元年（一七五一）八月の條事に、「品川元貞（堀）大竜寺に、異道子の常海補陀山遊海寺立石觀世音像を立碑を立つる（素人斎伯耆とを写す。加藤氏遺立）」とあります。以上ことから本図は、享保・元文年間（一七六一―一七四二）頃に制作された作品であると思われる。

平成十二年十月

浄土宗 心法寺

分骨されたお墓のある常福寺・柴山（埼玉県白岡市）



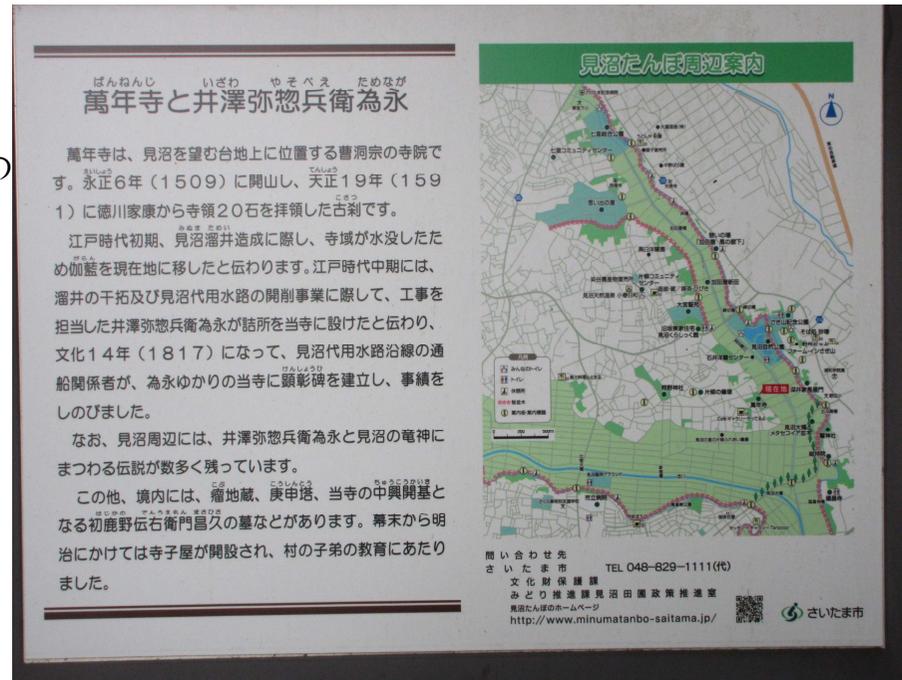
萬年寺(ばんねんじ)



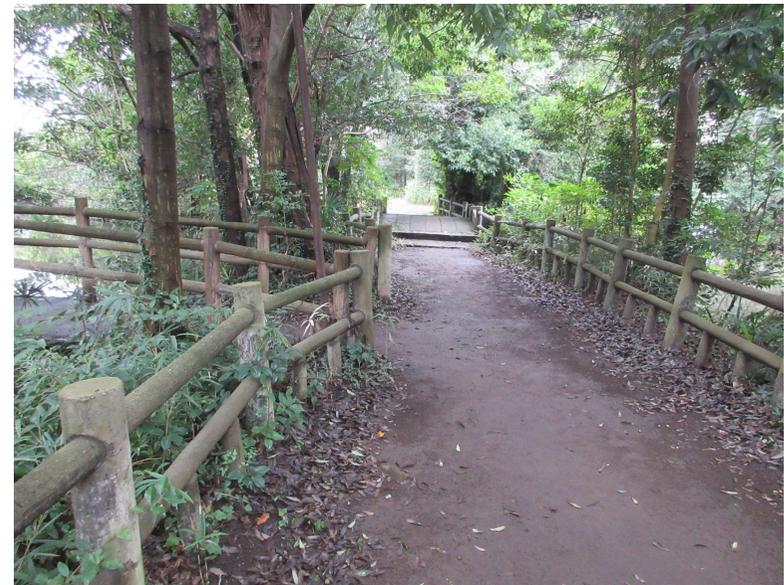
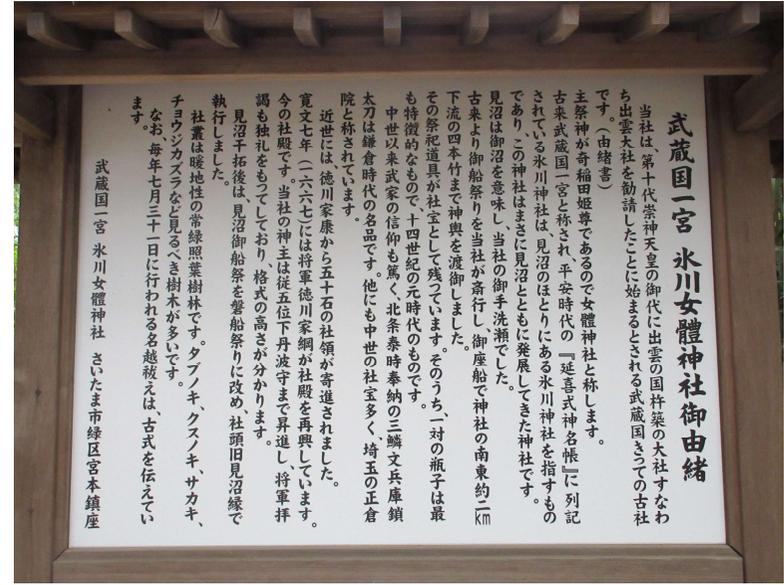
見沼干拓の際の番所(工事事務所)が設置されていた。



井澤弥惣兵衛の顕彰碑



氷川女体神社



ご存じですか？へーそうなんだ。

「これは川ではない、滝だ！」

- ・ この言葉を言ったのは、明治時代初期のオランダ人お雇い工師のデレーケが、富山県の常願寺川を視察した際に言った言葉と、一般に伝えられています。
- ・ デレーケは、常願寺川の支流の、日本で最高の落差のある称名の滝を発見したことで知られています。
- ・ この言葉は、実際は、立山カルデラから流下する膨大な土砂に対して、県の予算では対処できないとして、富山県の役人が直轄事業化を国に要望する文書の中で表現したものです。
- ・ 「川というよりも、瀑(ばく)といわんや」
- ・ その結果、立山砂防事業は、国土交通省の直轄砂防事業箇所として、長年継続されています。白岩砂防堰堤が有名です。

ご存じですか？へーそうなんだ。

「調節池の囲繞堤の読み方？」

- ・ 河川系の技術者は、「囲繞堤」を一般的に「いぎょうてい」と呼び習わしていますが、本来のこの漢字の読み方は「いによう」と読むのが正しいものです。
- ・ 囲繞（いによう）とは、回りを囲いめぐらすことと。回りをぐるりと囲んでいることの意味です。
- ・ 「いじょう」と読むこともあるようです。
- ・ おそらく、堯（ぎょう：古代中国の伝説の3人の天子・堯舜禹の一人）などの読み方から読み違えられたと思われる。

ご存じですか？へーそうなんだ。

玉川上水の建設の主役は玉川兄弟ではなく、「知恵伊豆」では？」

- ・ 玉川兄弟は、町人の請負業者です。現在でいえば、ゼネコンに当たります。でも、主役というには不適當ではないでしょうか。
- ・ 例えば、法隆寺を作った人は誰ですかという質問に対して、子供達は聖徳太子と答えます。宮大工の集団の金剛組とは言われません。
- ・ つまり、誰が必要として、誰が主導して、誰が資金手当をしたかということが主役の評価となります。
- ・ 玉川上水は、徳川幕府が人口が急膨張している江戸の水不足を解消するために、徳川幕府が資金を出して実施した事業です。時の四代将軍の徳川家綱はまだ中学生くらいで、実務の実権はありませんでした。
- ・ 主導したのは、「知恵伊豆」こと、老中首座の松平伊豆守信綱です。自ら「惣奉行」として事業を推進しました。川越藩主でもあったので、その後野火止用水を分水する権利を幕府に認めさせています。これにより、不毛の野火止台地が開発されました。

ご存じですか？へーそうなんだ。

「オランダ人お雇い講師のリンドが設置した水準標石はペトルメルクステトン？」→「**ペイルメルクステイン**」です。

- ・ 明治時代初期のオランダ人お雇い工師の一人リンドが、利根川、江戸川、荒川に、水位観測や水準測量のための水準標石を設置しました。この水準標石をオランダ語で、利根川百年史などの文献書籍では「**ペトル** **メルク** **ステトン**」と記載されていますが、これは間違いです。
- ・ リンドの文書を翻訳した人(澱川 碇)が、縦書きのカタカナで「イ」をやや斜めに書いたため、後の日本人河川技術者が斜めの「イ」を「ト」と読み間違えて、治水雑誌などに掲載したことで間違いが一人歩きしました。
- ・ 本当の表現は「**ペイル** **メルク** **ステイン**」(英語のベンチマークに相当)が正解です。

ご存じですか？へーそうなんだ。

洪水で堤防が破堤した箇所に行ける「おっぼり」とは

- ・ 「おっぼり」:語源的に「押堀」と表記
 - ・ 洪水で堤防が破堤した後にできる深い局所洗掘の池、水たまり。
 - ・ 中条堤の北河原の切れ所沼
 - ・ 栗橋の宝治戸池
- など、利根川洪水の氾濫原の中川流域に多数あり。

写真は栗橋の宝治戸池と幸手の高須賀池。
代表的な「押堀」(おっぼり)

・後北条氏が締め切った古利根川の蛇田堤の箇所は、江戸時代の洪水で破堤して、宝泉寺池となっている。

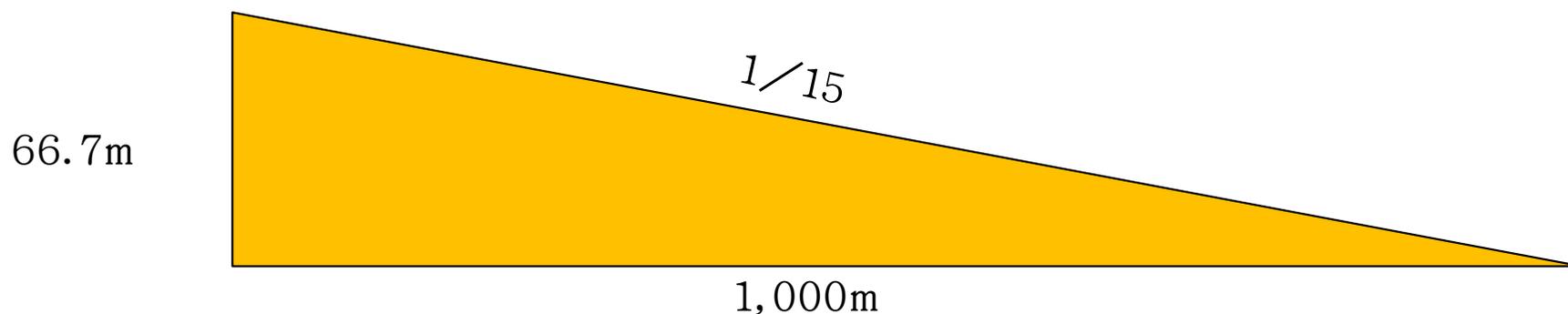
- ・ 「落とし堀」は全く別物:用水路と排水路を兼用した農業用水路。
- ・ 用水＝「堀」
- ・ 排水(悪水)＝「落とし」
- ・ 関東流の水利用方式
- ・ 葛西用水路が途中区間で大落古利根川の流路を兼用している。
- ・ 写真は「関宿落とし堀」別名「随庵堀」の説明パネル。



ご存じですか？へーそうなんだ。

「碓井峠の最大勾配の66.7パーミルって？」

- ・ クイズでもしばしば出される話題の、かつて群馬県と長野県を結んでいた信越本線の碓井峠の最大勾配は、1000メートルで66.7メートル上がる急勾配として、アプト式鉄道として建設されました。
- ・ ‰(パーミル)は、千分率のことです。
- ・ この66.7‰(パーミル)は、中途半端な、おかしい数値だと思っている方もいるかと存じます。
- ・ 実は、この勾配は、山岳鉄道として、 $1/15$ の勾配のことでした。
- ・ $1/15 = 0.06666\cdots$ となります。



平成27年の鬼怒川洪水で溢水した箇所は、自然堤防では無く、「鬼怒砂丘」と呼ばれる河畔砂丘です。

推論、私論

玉川上水の建設費用は？

- ・ 当初、玉川上水の建設資金として、徳川幕府から玉川兄弟に渡された資金は、6,000両とされています。
- ・ ところが、言い伝えでは、2回の路線選定の失敗などもあり、建設資金が途中で枯渇して、玉川兄弟は家屋敷を売り払い、親戚からも借金をして、3,000両を工面して、工事を継続しました。
- ・ 徳川幕府の公式文献では、玉川上水の建設の経費を7,500両と記述されているものがあります。
- ・ 推論として、不足した3,000両の半分を幕府側の負担として増額変更に応じて、残りの不足分は、玉川兄弟を玉川上水の管理役として任命して、利用水量に応じて、代金を徴収する権利を認めたということではないでしょうか？
- ・ いわゆる現代のPFI事業の走りではないでしょうか？

話題:二郷半領の地名のエピソード

*埼玉県東部の吉川市から三郷市周辺は江戸時代までは二郷半沼という沼地・低湿地帯であった。寛永年間の伊奈氏の治水事業で広大な新田が開発された。古利根川の河道を兼用した葛西用水の松伏溜井から二郷半領用水路が引かれた。

*このとき、徳川家から伊奈氏に対して、「この地を一生支配せよ。」と報償が与えられた。

『一升』を『四配』(4分の1)する。→『2合半』

実際は、『新田十分の一付与』という特権で、新田開発の面積の1割が伊奈家の新規の領地とされて、幕府から命じられる多くの業務を遂行するために、関東郡代伊奈家の財政を支えた。

・クイズ:『一斗二升五合』は、何と読みますか？

・答え:(ご記入願います)

ご清聴、ありがとうございました。

- ・ 本日は「河川文化を語る会」に御参加いただきまして誠にありがとうございました。今後も機会がいただけたら、次回以降も御参加をお待ちしております。
- ・ 千葉県立関宿城博物館では、調査協力員の博物館セミナーを開催しています。
- ・ 友の会では勉強会に加えて、歴史探訪ウォーキング、昔のあそびを楽しむ、関宿城さくらまつり出展なども実施しています。
- ・ よろしければ、是非、千葉県立関宿城博物館友の会に入会を御検討ください。

